

第七十三回帝國議會
衆議院

商法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第九回

會議

昭和十三年三月十四日(月曜日)午前十時十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 野村 嘉六君

理事仲井間宗一君 理事宮崎 一君

理事紅露 昭君

一松 定吉君

田村 秀吉君

山本 桑吉君

江原 三郎君

森 榮藏君

曾木 重貴君

佐竹 晴記君

田川大吉郎君

出席政府委員左ノ如シ

司法省民事局長 大森 洪太君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

○野村委員長 是カラ開會致シマス、本日ハ監査役カラ始メルコトニ致シマス

○大森政府委員 第三款監査役ニ付テ申述ベタイト存ズルノデアリマス、先ヅ第二十七十六條ノ第二項デアリマス、是ハ新設ノ規定デアリマシテ、現行法ノ不備ヲ補ツタモノデアリマス、御承知ノ通りニ監査役カラ一時取締役ノ職務ヲ行フベキ者ヲ定メルコトガ出來ルノデアリマシテ、是ハ現行法通リデアリマス、併シ其場合ニ某監査役ガ今

一時的ニ取締役ノ職務ヲ行フテ居ルト云フコトヲ公ニ示ス手續ガ、現行規定ニハ缺ケテ居ツタノデアリマス、ソレヲ補ヒマスルガ爲ニ登記ヲスルト云フコトニ致シマシタ、是ガ即チ第二百七十六條第二項デアリマス、次ニ第二百七十九條デアリマスルガ、少數株主權ノ行使ニ關スル規定デアリマス、之ニ付キマシテ、ヤハリ前回申述ベタト同様ノ趣旨カラ致シマシテ、會日ノ三箇月前ヨリ引續キ株主デアル者デナケレバ、少數株主權ノ行使ガ出來ナイト云フコトニ致シマシタ、是ガ即チ第一項ニ規定シテ居ル所デアリマス、尙ホ第二百八十條ノ準用規定中

デ申上ゲテ置カナケレバナラナイノデアリ

マスルガ、御覽ノ通りニ第二百五十四條第一項ガ準用セラレテ居リマス、其結果監査役モ必シモ株主タルコトヲ要シナイコトニナツテ居ルノデアリマス

○野村委員長 何カ御質疑ハアリマセスカ——ソレデハ第三款監査役ニ對シテハ他ニ御質疑ガナイモノト認メマス、第四節會社ノ計算ニ移リマス

○大森政府委員 第四節會社ノ計算ニ付テ順次申述ベテ參リタイト存ジマス、先ヅ第二百八十一條デアリマス、是ハ書類ヲ監査役ニ提出スル期間ヲ延バシタノデアリマス、御承知ノ通り現行法デハ一週間前トナツテ居リマス、ソレデハ株主ガ是等ノ書類ニ付テ閱覽ヲシマスル期間ガ、事實上無クナルヤウナ結果ニナリマシテ、現行法上其不備ガ屢、懸ヘラレテ居リマス、デアリマスルカラ本案デハ二週間ト云フコトニ延長ヲシタノデアリマス、第二百八十二條ノ第一項デアリマス、只今申上ゲマシタ期間延長ニ關係スル問題デアリマス、取締役ガ監査役ニ二週間前ニ出シマシテ、サウシテ其書類

付託議案
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
有限會社法案(政府提出、貴族院送付)

ヲ一週間前ニ本店ニ備ヘ置クコトニ致シタノデアリマス、即チ一週間ハ株主ナリ會社債權者ノ閱覽ガ出來ルト云フコトニナルノデアリマス、御承知ノ通り現行法デハ此期間ガ殆ド無カッタノデアリマス、次ニ同條ノ第二項ノ末段デアリマスルガ、會社ノ定メタル費用ヲ支拂ツテ、其謄本又ハ抄本ノ交付ガ求メラレルト云フコトヲ新設致シマシタ、是亦現行法ニ缺ケテ居ツタ所デアリマス、次ニ第二百八十四條デアリマスガ、御承知ノ通りニ現行法デハ計算書類ヲ承認致シマスレバ、取締役、監査役ノ責任ガ解除セラレルト云フコトニナツテ居リマシタ、即チ取締役、監査役ノ責任ノ解除ガ、現行規定デハ餘リニ無難作ニナツテ居リマシテ、是ハ是等ノ者ノ責任ヲ重ンズル所以デハアリマセヌノデ、本條デ以テ之ヲ改正シタノデアリマス、即チ承認ガアリマシテモ、當然責任解除ト云フコトニハナラナイノデ、其後二年內ニ別段ノ決議ガナケレバ、其期間ノ經過シタ時ニ於テ、初メテ責任ガ解除シタモノニナルト云フコトニ致シマシタ、詰リ書類

承認後、二年内ニヤハリ取締役、監査役ノ責任ヲ主張シ得ルト云フコトニ致シタ次第デアリマス、其他ニ付テハ現行法ト變リハアリマセス、次ニ第二百八十六條デアリマス、本條以下數條、會社ノ計算ニ付テ、特ニ貸借對照表ノ記載方法ニ付テ規定ヲ設ケマシタガ、是ハ專ラ實際上ノ見地ニ基キマシテ、實際ニ適應スルヤウニ之ヲ改正シタ次第デアリマス、即チ本條ハ第六十八條第一項第七號ニ依リマシテ支出シタ金額、即チ會社ノ負擔ニナリマスル設立費用及ビ發起人ニ對シテ支拂ヒマシタ報酬デアリマス、ソレカラ設立登記ノ爲ニ支出シマシタ税額、即チ登記料、是等ハ所謂創業費デアリマシテ、金ノ支出ハゴザイマシタケレドモ、寧ろ是ハ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上スルコトヲ可トスルモノデアリマシテ、大抵是マデハ左様ニ事實上行ハレテ居ッタヤウデアリマスカラ、之ヲ資産ノ部ニ計上スルコトヲ明ニ認メマシタケレドモ、ヤハリ一面資産ノ部ニ計上致シマスルナラバ、他面償却ト云フコトヲ爲サシメナケレバナラナイノデアリマシテ、之ヲ兩方トモ本條ニ於テ明ニ致シタノデアリマス、第二百八十七條デアリマスルガ、是亦同趣旨デアリマシテ、所謂創業費ニ該當スルモノハ、貸借

對照表ノ資産ノ部ニ計上スベキデアルガ、併シ償却シナケレバナラナイト云フコトヲ明ニ致シマシタ、其一トシテ社債權者ニ償還スベキ金額ノ總額ガ、社債ノ募集ニ依リテ得タル實額ヲ超エマシタ時、其場合ヲ一ツ茲ニ明ニ致シタノデアリマス、次ニ第二百八十八條デアリマスガ、是ハ御承知ノ法定準備金積立ニ關スル規定デアリマス、之ニ付テハ別ニ甚シク變更シタノデハナイノデアリマスガ、第一項デ文字ヲ改メマシタ、御承知ノ通り法定準備金積立ニ關スル現行規定ノ文字ハ、甚ダ曖昧デアリマシテ、能ク問題ニナリマシタノハ、利益ハアッタ、併ナガラ配當ハシナカッタト云フ場合ニ、積立ナクテモ宜イノデアアルカドウカト云フ問題ガアッタノデアリマス、是ハ勿論利益ガアリマスル以上、假令之ヲ配當シナイデモ、積立金ノ問題ハ生ズルノデアリマスケレドモ、現行法ハ其點ニ於テ、文字上曖昧ナ點ガアッタノデアリマスカラ、本案ニ於テハ、利益ガアレバ配當ノ有無如何ニ拘ラズ、其幾分ヲ積立テナケレバナラナイト云フコトヲ明ニ致シマシタ、現行法ノ下ニ於テモ、趣旨ハ此通りデアラウト存ズルノデアリマス、次ニ第二項モ現行法ニ多少ノ變更ヲ加ヘタノデアリマス、即チ

額面以上ノ價額ヲ以テ、株式ヲ發行スル場合ノ積立デアリマスガ、此場合ニ額面ヲ超ユル金額カラ發行ノ爲ニ必要ナル費用ヲ控除シテヤラナケレバ、會社ニ氣ノ毒デアリマスカラ、此點ヲ茲ニ明ニ致シタ次第デアリマス、次ニ第二百八十九條デアリマス、法定準備金ノ用途ニ付テ、是マデ規定ガ缺ケテ居リマシタ、尤モ解釋上此點ハ殆ド一致ハ致シテ居リマシタケレドモ、斯様ナ重要問題ニ付テハ、ヤハリ法文デ之ヲ明ニスベキモノデアルト考ヘマシテ、其事ヲ明ニ致シマシタ、即チ資本ノ缺損ノ填補ニダケハ充テラレケレドモ、其以外ニハ此法定準備金ヲ崩スコトガ出來ナイト云フ趣旨ヲ茲ニ明ニ致シタノデアリマス、第二百九十一條ハ御承知ノ建設利息配當ニ關スル規定デアリマス、此點ニ付キマシテモ、現行法ニハ不備ノ點ガアリマシタ、即チ建設利息デアリマスカラ、建設期間内ハ其配當ガ出來ル譯デアリマスカラ、會社ノ營業ノ全般の開業ニ至ルマデハ、配當ガ出來ル譯デアリマスガ、之ヲ潛リマシテ態ト全般の開業ニ至ル時期ヲ遲ラセテ、其間此利息ノ配當ヲスルト云フ弊害モ生ジタノデアリマスカラ、本案ニ於キマシテハ、此第一項ニ、定款デ利息配當ノ期間ヲ定メテ置カナケレ

バナラナイト云フコトヲ明ニ致シマシタ、即チ第一項ノ内ニ「定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内」ト云フ文字ヲ挿入シタノデアリマス、ソレカラ第三項ハ新設ノ規定デアリマスガ、ヤハリ是ハ償却ヲ必要トスルモノト存ジマシテ、此規定ヲ置イタノデアリマス、今日ニ於キマシテモ、健實ナル會社ハヤハリ此通りニヤッテ居リマスガ、其實際上ノ見地カラ致シマシテ、之ヲ法文ニ現ハシタノデアリマス、蓋シ會社ノ財産狀態ヲ健全ニスル所以デアラウト思フノデアリマス、次ニ第二百九十二條ノ新設ノ規定デアリマスガ、是亦從來疑トナッテ居リマシタ所ノモノヲ、明ニシタノデアリマス、詰リ建設利息ヲ配當シマス會社ガ、増資ノ場合ニ於テ、新株ニ對シテ建設利息ノ配當ガ出來ルカドウカト云フコトハ、從來疑問ニナッテ居リマシタ、併シ之ヲ排斥スベキ理由ハ毫モ無イノデアリマスカラ、是ガ出來ルト云フコトヲ明ニ致シマシタ、尤モ定款デ別段ノ定メヲスルコトハ、固ヨリ妨ゲガナイノデアリマシテ、其事ヲモ茲ニ明ニ致シマシタ、次ニ第二百九十四條デアリマスガ、是亦御承知ノ少數株主權ノ行使トシテ、會社ノ業務及ビ財産ノ狀況ノ調査權ニ關スル規定デアリマス、此規定モ固ヨリ必要ナ規

定デアリマシテ、是ハ存續ヲシナケレバナ
ラナイノデアリマスケレドモ、御承知ノヤ
ウニ此規定ガ屢ニ濫用サレマシテ、即チ所謂
少數株主權ノ惡用ト云フコトガ、起リタノデ
アリマスカラ、其事由ヲ多少限定致シマシ
テ、ソレヲ第一項デ御覽ノ通りニ「會社ノ
業務ノ執行ニ關シ不正ノ行爲又ハ法令若ハ
定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑
フベキ事由アルトキハ」斯様ニ法文デ明ニ
致シマシタ、尙ホ少數株主權ノ行使ノ出來
ル株主ハ、三月前ヨリ引續キ株主デアル者
デナケレバナラナイト云フコトモ、亦前ニ
申述ベタト同様デアリマス、次ニ第二百九
十五條デアリマスガ、是亦全ク新設ノ規定
デアリマス、是亦時弊ニ適應スル爲ニ設ケ
タ所ノモノデアリマシテ、御承知ノ通りニ
會社ガ使用人ノ給料ヲ預ッテ居ルト云フ場
合ガ、多々アルノデアリマス、又身元保證
金等ヲ會社ガ預ッテ居ルト云フコトモ、多イ
ノデアリマス、斯様ナ場合ニ會社ガ破綻ニ
瀕スル、若クハ會社ガ破産ニナツテシマフ、
斯ウ云フ場合ニ會社ノ財産ガドウセ足リナ
イノデアリマスカラ、是等ノ使用人ニ對シ
テ返還スルコトガ出來ナイト云フ、悲惨ナ
實例ガ屢ニ起リタノデアリマス、其縣下ニ於キ
マシテ、製絲會社ガ製絲工女ノ給料ヲ預ッ

テ居リマシテ、サウシテ會社ガ潰レマシタ
ガ爲ニ、是等ノ製絲工女ガ多年働イタ所ノ
給金ガ、遂ニ貫ヘナカッタト云フ、實ニ氣ノ
毒ナ實例ガアッタノデアリマス、ソレ等ノ點
ヲ考慮致シマシテ、身元保證金ノ返還ヲ目
的トスル債權ナリ、其他會社ト使用人トノ
間ノ雇傭關係ニ基イテ生ジタ債權ヲ持ッテ
居ル者ハ、會社ノ總財産ノ上ニ先取特權ヲ
有スルト云フコトヲ明ニ致シマシタ、是ガ
第一項デアリマシテ、第二項ニ其先取特權
ノ順位ヲ定メマシタ、ソレハ民法第三百六
條ノ御承知ノ先取特權ノ中ノ第一號ノ次ト
云フコトヲ明ニ致シマシタ、第一號ハ御承
知ノ共益費用デアリマス、第二號ハ葬式ノ
費用デアリマス、デアリマスルカラ共益費
用ノ次デアッテ、葬式費用ノ前デアルト云フ
コトヲ明ニ致シマシタ、此程度ノ保護ハ固
ヨリ必要ナコトト存ズルノデアリマス

マセウカ、是ハ此二百九十五條ニ依リマス
ナラバ、「身元保證金ノ返還ヲ目的トスル債
權」ト云フモノヲ例示致シマシテ「其ノ他會
社ト使用人トノ間ノ雇傭關係ニ基キ生ジタ
ル債權」トアリマシテ、其字句ノ用ヒ方ガ、
雇傭契約ノ直接ノ效果タル債權ト云フ風ニ
解釋セラル、餘地ガアルヤウデアリマス、然
ルニ只今申上ゲマシタヤウナ幾多ノ給與金
等ニ付テハ、直接雇傭契約ヨリ發生致シマ
スル債權デナク、他ノ法律ノ效果トシテ賦
與サルベキ金デゴザイマスルガ、是デモヤ
ハリ二百五十九條ノ趣旨ニ基キマシテ、保
護サルベキデハナイカト考ヘマス、成程「會
社ト使用人トノ間ノ雇傭關係ニ基キ」トア
リマスノデ、是モ當然含マレテ居ルト解釋
スベキヤウニモ考ヘラレマスガ、此點此際
明ニ願ッテ置キタイト存ジマス

選任サレマシテ、其調査ヲ致シマシタコトガ
アリマスガ、折角裁判所ノ命令ニ依リマシテ
會社ニ赴イテ、帳簿ノ提出ヲ求メ、其他調査
ヲ開始ヲ致シマス時ニ、之ヲ拒否サレマシ
テ、如何トモスルコトガ出來ナイ場合ガ
多々アッタノデアリマス、私共ハ此検査役ノ
職務ヲ遂行セシムル爲ニハ、適當ノ權力ヲ
賦與スルニアラザレバ、或ハ適當ノ検査ヲ
爲スダケノ權利ヲ裁判所カラ與ヘテ戴クニ
アラザレバ、此二百九十四條ハ全ク空文ニ
終ルデハナイカト思フノデアリマス、此點
ニ付テ當局ハ如何ニ御考デゴザイマセウカ、
御尋ヲ致シマス

○大森政府委員 御尤ノ御尋ト存ズルノデ
アリマス、之ニ付キマシテハ第四百九十八
條ノ第四號ニ罰則ヲ以テ臨ンデ居ルノデア
リマシテ、此罰則ノ適當ナル運用ニ依リマ
シテ、御承知ノヤウナ弊害ヲ避ケテ行キタ
イト存ジテ居リマス

○佐竹委員 「本編ニ定ムル検査又ハ調査ヲ
妨ゲタルトキ」斯ウゴザイマスルガ、實際檢
査又ハ調査ヲ妨ゲタリヤ否ヤト云フコトガ、
極メテ不明確ナ場合ガアリマシテ、例ヘバ
帳簿ナドヲ全ク持ッテ居ナイ、成程商法ノ規
定ノ上ニ於テハ、或ル程度ノ商業帳簿ノ備
付ヲ強要致シテ居リマス、併シ實際検査ノ

場合ニ於テハ、例ヘバ小切手帳ヲ見タイトカ、或ハ會社トノ取引ニ付テ第三者ニ照會ヲシタイ、例ヘバ會社ノ取引ニ付テ、相手方タル銀行ニ其内容ヲ聞合セマス、銀行ハ祕密ニ屬スルカラト言ッテ、之ヲ拒否スル、斯ウ云フヤウナ工合デ、實際検査ヲ命ゼラレテ立入ッテ見マス、其調査カラ、派生致シマスル幾多ノ關係ニ付テ、或ハ帳簿ノ提出、或ハ第三者ニ對スル關係等ノ取調ヲ開始致シマス、或ハ其帳簿ハゴザイマセストカ、銀行關係ニ付テ調査ヲ致シタイカラ、アナタノ方カラ電話ヲ掛ケテ、私ノ帳簿ヲ見セテヤッテ載キタイト云フコトヲ、銀行ヘアナタノ方カラ承諾ノ旨ヲ通知シテ貰ヒタイ、斯ウ云フコトニナリマス、イヤ、遺憾ナガラ其點ハ祕密ニ屬スルノドト、斯ウ答ヘル、斯ウ云フ際ニ於テ、ドウモ是ハ直チニ検査、調査ヲ妨ゲタリヤ否ヤト云フコトガ不明デアリマス、ソレ切リデアリマス、斯ウ云フ際ニ於テハ検査役ニ更ニ突キ進ンデ、或ハ搜索、檢索ヲ爲シ、或ハ第三者ニ對シマシテ、直接ニ取調ヲスルダケノ權能ト云フモノヲ御與ヘ戴キマセスケレバ、到底其職務ヲ遂行スルコトガ出來ナイノデアリマス、私共ハ屢、其經驗ニ依リマシテ、

モウ殆ド調査ガ出來マセスト云フ報告ヲ致シマス、其點ニ付テハ調査ガ出來マセスト言フト、裁判長ハソレ切リソレヲ報告ヲ受ケタト稱シマシテ、其儘デ済マシテ居リマス、實質ニ於テ殆ド斯ノ如キ條文ヲ、空文ニ終ラシメテ居リマス結果トナル場合ガ多イノデアリマスガ、斯ウ云フ場合ヲ救フベク、適當ニ検査役ヲ選任シタルトキハ、裁判所ハ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得トカ、或ハ命令ヲ發スルコトヲ得トカ云ツタ規定ヲ設ケテ、其職務ヲ十分ニ達成セシムルコトガ出來ルヤウニシナケレバ、此規定ヲ設ケマシタ所ノ本來ノ趣旨ヲ、徹底セシメルコトガ不可能デアルト考ヘマスルガ、如何デアリマスカ

○大森政府委員 今日ノ實際ニ於キマシテ、之ニ關スル罰則ノ規定ノ履行ガ、或ハ出來テ居ナイノカモ知レナイノデアリマス、ソレ等ノ點ハ此改正商法ノ趣旨ニ鑑ミマシテ、將來ハ十分適正ニ運用シテ行キタイト存ズルノデアリマス、尙ホ此検査役ニ或ル特殊ノ權限ヲ與ヘタラドウカト云フ御意向デアリマシタガ、此検査役ニ對シテ特殊ノ權限ヲ與ヘルト云フコトモ、確ニ一策デアラウト思フノデアリマス、デアリマスルカラ此案ニ於キマシテハ、會社ノ整理ノ場合ニ付

キマシテハ、検査役ニ對シテ相當ノ權限ヲ與ヘタノデアリマス、即チ第三百九十條第二項ガソレデアリマス、併ナガラ會社整理ノ場合以前ニ、詰リ會社整理ノ必要ノナイ場合ニ、検査役ニ特殊ノ權限ヲ與ヘルト云フコトハ、今日ノ所如何カト存ジマシテ、之ヲ差控ヘタ次第デアリマス、併シ先程モ申シマシタ罰則ノ適正ナル運用ニ付キマシテ、十分ニ注意ヲ致シタイト存ズルノデアリマス

○佐竹委員 宜シウゴザイマス

○野村委員長 サウシマス、第四節會社ノ計算ニ付テ、他ニ御質問ハナイ認メマス——第五節社債、第一款總則……

○大森政府委員 第五節社債、第一款總則ニ付テ申述ベタイト存ズルノデアリマス、先ツ第二百九十七條ノ第三項デアリマス、御承知ノ通りニ社債募集ニ付テ其額ニ制限ノアリマスルコトハ、是ハ現行規定ト同様デアリマス、但シ舊社債償還ノ爲ニ致シマスル場合ニハ、之ニ緩和的規定ヲ置カナケレバナラナイコトハ、申上ゲル迄モナイノデアリマス、即チ前社債ヨリモ率ノ安イ社債ヲ募集シテ、ソレニ依ッテ前社債ヲ償還スルコトガ出來ルナラバ、社債募集ノ制限ニ拘ラズ新社債ヲ募集シテモ宜シイト云フノデ、是ハ御

承知ノ通りニ既ニ特別法ニ於テハ漸次認メラレテ居ルノデアリマス、然ルニ一般法タル商法ニ是ガ缺ケテ居リマシタガ爲ニ、其事ヲ第三項前段ニ於テ明ニ致シマシタ、併ナガラ其爲ニ社債ヲ募集シテ置キナガラ、其舊社債ヲ償還シナイト云フコトデアリマスナラバ、是ハ甚ダ宜シカラザルコトデアリマスカラ、舊社債償還ニ付テノ必要ナル要件ヲ、茲ニ定メタノデアリマス、ソレガ同項ノ後段デアリマス、次ニ第二百九十九條ノ第二項デアリマス、是ハ同一社債ニ在リテハ各社債ノ金額ハ均一デアル、或ハ最低額ヲ以テ整除シ得ベキモノデナケレバナラナイト云フコトヲ明ニ致シマシタ、御承知ノ通りニ最低額デ整除シ得ベキモノデアリマスカラ、例ヘバ五十圓、百圓、二百圓、三百圓ト云ツタヤウナ工合デアリマス、是ハ御承知ノ通りニ擔保附社債信託法ニモ此規定ガアルノデアリマスガ、此案ニ於キマシテハ、後ニ申述ベマスル通りニ社債權者集會ニ關スル規定ヲ設ケマシタカラ、其議決權ノ標準等ヲ定メルニ付キマシテ、此規定ガ當然必要ニナッテ參ツタノデアリマス、次ニ第三百一條第二項ノ社債申込證ノ記載要件デアリマス、此案ニ付キマシテハ、社債ニ付テ相當ノ改正補充ヲ致シマシタガ爲

ニ、此申込證記載ノ要件ガ殖エテ參ッタノデアリマス、譬ヘテ申シマスルト第十二號、是ハ舊債償還ノ爲ニ制限ヲ超エテ社債ヲ募集スル場合デアリマシテ、即チ先程申シマシタ第二百九十七條第三項ノ場合デアリマシテ、左様ナ場合ナラバ其コトヲ、ヤハリ申込證ニ明ニシナケレバナナイト存ズルノデアリマス、ソレカラ第十四號デアリマス、社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガアレバ、其會社ノ名前、即チ所謂受託會社デアリマス、御承知ノ通りニ現行規定ニ依リマシテハ、受託會社ト云フモノハ、一向ニ活躍ヲ致シテ居ナイノデアリマス、其爲ニ社債權者ガ權利ヲ行使シヨウト思フニハ、自分ガ個々ニ其權利ヲ行使スルノ外ハナカッタノデアリマス、是ハ社債權者ニ取リマシテモ厄介至極ナコトデアリマスシ、又時ニハ會社ニ取リマシテ迷惑ナコトモナルノデアリマシテ、左様ナ關係ハ一般的ノ説明ノ際ニ申述べタノデアリマス、デアリマサルカラ此案デハ受託會社ガアレバ、受託會社ガ是等ノ權利ノ行使ヲスルト云フコトニ致シマシテ、即チ御承知ノ擔保附社債信託ノ場合ニ準ジテ、受託會社ト云フコトヲ重ク取扱ッタノデアリマス、隨テ第十四號ニ受託會社ノ名前ヲ掲ゲシメルコトニ致シマシ

タ、第十五號カラ御承知ノ所謂請負募集ノ場合デアリマシテ、今日請負募集ト云フコトガ甚ダ多ク行ハレテ居ルコトハ、申ス迄モナイノデアリマス、左様ナ定メラシマシタ時ニ、社債申込證ニ之ヲ記載セシメルト云フコトモ、蓋シ當然デアラウト存ズルノデアリマス、次ニ第三百九條デアリマス、是ハ只今言及致シマシタガ、即チ受託會社ニ關シテノ規定デアリマス、社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、即チ受託會社ハ、社債權者ノ爲ニ社債ノ償還ヲ受クルニ必要ナル一切ノ裁判上、裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ持ツト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、即チ商法上ノ社債即チ無擔保ノ社債ニ對シマシテハ、今日ノ所デハ社債權者ガ個々ニ、個別的ニ權利ヲ行使スルノ外ハナカッタノデアリマス、然ルニ御承知ノ通りニ一ツノ社債權者ノ權利ト云フモノハ、其額ガ少イノデアリマサルカラ、少額ノ債權者ガ自己ノ權利ヲ必ズ自分デ行使ヲシナケレバナラナイト云フコトニ致シマスルト、勢ヒ泣寝入りヲシテシマフト云フヤウナコトニナリ勝ちデアッタノデアリマス、又會社ガ資本ノ減少トカ合併ヲシマサル場合ニ、債權者ニ異議ナキヤ否ヤヲ確メテ行カナケレバナリマセヌガ、社債權者モ亦一ツノ權利者デアリ

マス、是等少額ノ權利者ガ一ツ苦情ヲ言ヒマス、ソレガ爲ニ會社ガ今申シタヤウナ手續ニ支障ヲ來スト云フヤウナコトガアリマス、デアリマスカラ社債權者ガ個々ニ自分ノ權利ヲ行使スルト云フコトハ、會社ニ取リマシテモ、亦社債權者ニ取リマシテモ不便デアリ、不都合デアッタノデアリマス、ソレ等ノ點ニ鑑ミマシテ、第三百九條ニ於キマシテハ、社債權者ガ自己ノ權利ヲ行使スルト云フ立場カラ其便益ヲ考ヘ、受託會社ガ是等ノ權限ヲ持ツト云フコトヲ明ニ致シタノデアリマス、第二項、第三項ハ之ニ牽聯スル必要ナ規定ト御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、第三百十條ハ受託會社ガ二ツ以上アリマシタ場合ニ、其權限ノ行使ハドウ云フ工合ニスルカト云フコトヲ明ニ致シマシタ、即チ是ハ共同行使デアルト云フコトニ致シタノデアリマス、是亦當然デアラウト思ヒマス、第三百十一條ハ是ハ義務ノ履行ノ方面ニ付テノ規定デアリマスルガ、受託會社ガ二ツ以上アリマサルナラバ、償還額ヲ社債權者ニ支拂ヒマスル關係ニ於テハ連帶責任デアルト云フコトニ致シマシタ、即チ受託會社ガ二ツ以上アリマサルナラバ、其權限行使ニ付テハ共同デアリマス、是ハ第三百十條、ソレカラ社債權者ニ對スル義務

ノ履行ニ付テハ連帶責任デアリマス、是ガ第三百十一條デアリマス、次ニ第三百十二條デアリマスルガ、是ハ受託會社ノ辭任ニ關スル規定デアリマス、只今申述べマシタヤウニ、受託會社ノ權限ガ甚ダ大キイノデアリマシテ、社債權者ニ對シテ極メテ重要ナル地位ヲ占メテ居リマス、デアリマサルカラ是ガ勝手ニ辭任サレテモ困リマサルカラシテ、其辭任ニ付テ規定ヲ設ケタノデアリマス、發行會社及ビ社債權者集會ノ同意ガナケレバ、辭任ガ出來ナイト云フ原則ヲ明ニ致シマシタ、併シソレ等ノ同意ガ得ラレナイ場合デモ、已ムコトヲ得ザル事由ガアレバ裁判所ノ許可ヲ得テ、辭任ガ出來ルト云フコトニ致シタノデアリマス、第三百十三條ハ受託會社ノ辭任ノ場合デアリマス、只今モ申上ゲマシタ通りニ、受託會社ハ重要ナル地位、職責ヲ持ッテ居ルモノデアリマスルカラ、ソレガ事務處理上不適任デアリマスルナラバ、之ヲドウシテモ辭任シナケレバナラナイト云フコトニナル、左様ナ必要ノ爲ニ茲ニ其辭任ニ對スル規定ヲ設ケタ次第デアリマス、第三百十四條ハ受託會社ノ事務承繼者ニ付テノ規定デアリマス、受託會社ガアリマシタケレドモ、辭任又ハ解任ノ爲ニソレガ無クナッテシマッタト云フ場合ニ、其

事務承繼者ヲ定ムル必要ナルコトハ、固ヨリ申ス迄モアリマセス、左様ナ必要ノ爲ニ第三百十四條ヲ新設致シタノデアリマス、第三百十五條ハ、御承知ノ所謂欠缺利札ノ場合ニ關スル規定デアリマシテ、他ニ斯様な規定ガアルノデアリマスルガ、商法ニハ欠缺テ居リマスカラ、之ヲ補充致シマシタ、是ハ御承知ノ通りニ無記名社債ノ利札ガ、債券ト分離シテ轉讓シテ居ル場合ガ多イノデアリマス、其場合ニ利札ノ所持人ノ利益ヲ考慮シテ、斯様な規定ヲ設ケタノデアリマス、即チ無記名社債ヲ償還シマスル場合ニ、利札ガ欠缺テ居リマスレバ、其欠缺タモノダケハ控除シテ支拂フ、詰リ欠缺ケタ利札ヲ他ノ者ガ持ッテ居リマシテ、後ニ其者カラ請求スルト云フ場合ヲ考慮シタノデアリマス、併シ支拂期ガ到來シテ居リマスレバ、其必要ノナイコトハ是ハ明ナコトデアリマスルカラ、ソレ等ノコトヲ第一項ニ明記ヲ致シマシタ、第二項ハ欠缺利札ノ所持人ガ何時デモ引換ニ控除金額ノ支拂ガ出來ルト云フコト、即チ欠缺利札ノ所持人ノ權利ヲ、茲ニ考ヘテ規定シタノデアリマス、次ニ第三百十六條デアリマス、第一項ガ現行規定ヲ變更シタモノデアリマシテ、第二項、第三項ハソレニ牽聯スル問題デアリマ

ス、實質的ノ改正ハ第一項ノ問題デアリマス、御承知ノ通りニ社債ノ償還請求權ノ時効ニ付テハ、別ニ何等ノ規定ガナカタモノデアリマスカラ、從來ハ商行爲ニ關スル時効ノ規定ガ適用ガアルモノトシテ、五年デ消滅スルモノト考ヘテ居ッタヤウデアリマス、併シ社債ノ償還請求權ニ付テ五年ト云フノハ、短キニ過ル憾ミガアリマスノミナラズ、從來ハ五年ト云フ解釋ガ果シテ適當ナルヤ否ヤ、ソコニモ疑問ノ餘地ガアルノデアリマス、デアリマスルカラ本案ニ於キマシテハ社債ノ償還請求權ノ時効ハ、十年ト云フコトヲ明ニ致シマシタ、併シ利息ナリ利札ニ依ル請求權ハ、是ハ五年デ宜イト思ヒマシテ、第三項ニハ五年ト云フコトヲ明ニシテ置イタノデアリマス

○依竹委員 一點御伺致シマス、第二百九十七條ノ第三項ニアリマス「六月内ニ舊社債ヲ償還スルコトヲ要ス」トアリマスガ、是ハ全額ノ意味デアリマセウカ、新募集ノ社債モ數回ニ分ケテ拂込ヲスルコトノ出來ル場合ノ規定ガゴザイマシタ、其場合ニ第一回拂込第二回拂込トナル場合ニ、舊社債ノ償還ガ一時ニ全額ヲ要スル場合、何カ不便ガアルノデハナイカト心配デアリマスガ、如何デスカ

○大森政府委員 御指摘ノ通りニ是ハ全額ノ趣旨デアリマス、ソレガ爲ニ數回ニ分ケテ拂込マシメル場合ニハ、直チニト云フコトニハシナイデ、第一回ノ拂込ノ日カラ六箇月内ト云フ或ル種類ノ猶豫期間ヲ認メ、其期間内ニ舊社債全額ヲ償還シロト云フコトニシタノデアリマス、此舊社債償還ノ爲ニスル社債募集ニ付テ、社債募集ノ要件ヲ緩和シテ規定ヲシタノデアリマスカラ、此緩和ニ依リマシテ新社債ヲ募集致シマシタ場合ニハ、舊社債ヲ成ルタケ早ク償還セシメナケレバナライノデアリマシテ、此緩和ヲ受ケナガラ舊社債ノ償還ヲ遲ラシテ居リマスルコトハ、甚ダ脫法行爲ニ相成ル譯デアリマス、デアリマスルカラ總テ全額償還ト云フ主義デ、進ンデ參ツタ次第デアリマス

〔進行ト呼フ者アリ〕

○野村委員長 ソレデハ第二款、社債權者集會ニ移リマス

○大森政府委員 第二款社債權者集會ニ關スル規定ハ、全部新設ノモノデアリマス、社債權者集會ヲ商法ノ社債ニ於テモ認メナケレバナライ必要ノ多イト云フコトニ付キマシテハ、一般的説明ノ際ニ申述べタ通りデアリマス、此社債權者集會ノ款ヲ新設ス

ルニ當リマシテハ、御承知ノ擔保附社債信託法ノ之ニ關スル規定、其他種々實際上ノ見地ヲ考慮致シマシテ、立案ヲ致シタヤウナ次第デアリマス、先ヅ第三百十九條デアリマスガ、社債權者集會デハ元々何ヲ決議スルノデアルカ、斯ウ云フ問題ガ先決的ニ解決ヲサレナケレバナライノデアリマス、又本法ノ中ニ社債權者集會デ決議ヲシナケレバナライコトヲ、又決議ヲシテ宜シイコトヲ學ゲテモ居リマス、例ヘバ此案ノ第三百二十九條、第三百三十三條、第三百三十四條等デアリマスルガ、其以外ニ社債權者集會ガ活躍シ得ル場合ハ、如何ナル場合デアアルカ、種々考ヘテモ見マシタガ、之ヲ法文デ制限的ニ例舉スルト云フコトハ、蓋シ不可能デアリマス、又ソレハ不都合デモアリマス、實際ニ即應致シマシテ、如何ナル場合ニ其必要ガ起ルカト云フコトハ、豫測ノ出來ナイ場合ガ多カラウト思フノデアリマス、然ラバ如何ナル微細ナル問題デモ、社債權者集會ノ決議ニ掛ケナケレバナライカ、又掛ケテモ宜イカト云フコトニナリマス、是亦弊害ヲ生ジマスカラ、觀念ト致シマシテハ、社債權者ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有スル事項デナケレバイケナイト云フコトヲ決メマシタ、併シ是ハ觀念的ノ問

題デアッテ、實際上ノ問題デアハ餘リ茫漠トシテ居リマスカラ、裁判所ノ許可ヲ受ケテ、斯ル事項ニ付テ決議ヲシタイガ、御許可願ヒタイ、斯ウ云フコトニシテ、許可ヲ得テソレヲ決議事項トスルト云フコトニ定メタノデアリマス、只今申述べマシタ此案決定メテ居リマス場合ハ、別ニ許可ガ要ヲナイノデアリマス、此案決定メタ事項以外ノ事項ニ付テノ問題デアリマス、次ニ第三百二十條デアリマシテ、社債權者集會ノ招集ニ關スル規定デアリマス、第一項ハ其招集者ガ發行會社デモ宜シイ、又受託會社デモ宜シイト云フコトヲ明ニ致シマシタ、第二項ハ社債權者招集ニ關スル規定デアリマス、末項ノ無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ供託シナケレバ、是等ノ權利ノ行使ガ出來ナイト云フコト、是亦蓋シ當然ノコトダラウト思フノデアリマス、次ニ第三百二十一條デアリマスガ、是ハ社債權者集會ニ於ケル議決權ニ付テノ規定デアリマシテ、第一項ニ社債ノ最低額毎ニ一個ノ議決權ヲ有スト云フコトニ致シマシタ、ソレカラ第二項ハ無記名式ノ債券ヲ有スル者ノ議決權行使ノ條件デアリマシテ、是ハ債券ヲ供託シナケレバナラナイト云フコトニ致シマシタ、是亦當リ前ノコトデアラウト存ズルノデア

リマス、第三百二十二條デアリマスガ、御承知ノ通り社債權者集會ハ、只今申述べマシタ者ノ招集ニ依リマシテ、社債權者ガ寄テ來ルノデアリマシテ、即チ社債權者ヲ以テ組織スル總會デアリマス、併ナガラ受託會社ナリ、發行會社ナリガ、此社債權者集會ニ出席シテ、意見ヲ述ベントスル機會ヲ與ヘルコトモ必要デアリマスシ、又出席シナイマデモ、書面デ意見ヲ述ベルト云フ機會ヲ與ヘマスコトモ必要デアリマス、ソレ等ノコトヲ第三百二十二條ニ規定ヲ致シタノデアリマス、蓋シ受託會社ナリ、發行會社ナリハ、社債權者集會ヲ組織スルモノデハアリマセヌカラ、ソレ等ノ意見ヲ述ブルニ付テハ、特ニ法文ヲ必要トスルト存ジタ次第デアリマス、第三百二十三條ハ前條ト丁度裏表ノ關係ニ立ツ規定デアリマシテ、社債權者集會ナリ、又其招集者ハ、發行會社ニ對シテ出席シロト云フ請求ガ出來ルト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、發行會社ハ固ヨリ法人デアリマスカラ、出席ヲ求メマスナラバ其代表者ノ出席ヲ求ムルト云フコトニナルノハ、蓋シ當リ前ノコトデアリマシテ、左様ナ關係ヲ本條ニ規定致シタノデアリマス、第三百二十四條ハ社債權者集會ノ決議ノ方法デアリマスガ、是ハ

株主總會ノ普通決議ニ準ズルモノカ、特別決議ニ準ズルモノカト云フコトニ付テ、考慮ヲスル必要ガアルノデアリマス、併シ社債權者集會ノ決議スルコトタルヤ、專ラ重要ナル事項デアリマスカラ、是ハ特別決議ニ依ルベキモノト存ジマシテ、原則トシテ社債權者集會ノ決議ハ、特別決議ノ方法ヲ必要トスルト云フコトヲ第一項デ明ニ致シマシタ、第二項ハ社債權者集會ノ決議デアリマスケレドモ、是ハ比較的輕微ナコトデアリマシテ、即チ同意ナリ請求ナリノ問題デアリマス、例ヘバ第三百十二條ノ受託會社ノ辭任ニ對スル同意デアリマスとか、或ハ第三百十三條ノ受託會社ヲ解任スルニ付テノ裁判所ニ對スル請求デアリマスとか、或ハ第三百十四條ノ事務承繼者ヲ定ムルコトニ付テノ請求デアリマス、是等ハ決議自體ガ當然ニ實質的ノ效力ヲ舉ゲルト云フモノハアリマセヌカラ、必シモ特別決議ヲ必要トシナイモノトスルノガ相當ダト存ジマス、デアリマスカラ第二項デ是等ノ場合ニ付テ例外ヲ設ケテ、普通決議デ宜シイト云フコトニ致シマシタ、第三百二十五條ハ決議ガアリマスナラバ、決議ノ認可ヲ一定期間内ニ裁判所ニ請求スルコトヲ必要トスルコトニ致シマシタ、詰リ社債權者集會ハ多數ノ

所謂團體債權者ノ利益ノ爲ニ存在スルモノデアリマスカラ、公益的見地ニ十分ニ重キヲ置カナケレバナラナイコトハ、申スマデモナイト存ズルノデアリマス、デアリマスカラ決議ノ認可ヲ裁判所ニ請求シナケレバナラスト云フコトヲ、茲ニ明ニ致シマシタ、ソレカラ一條飛ビマスガ、第三百二十七條ニ依リマシテ、社債權者集會ノ決議ハ、裁判所ノ認可ニ依ッテ其效力ヲ生ズルト云フコトニ致シマシタ、而モ認可ガアリマシタ所ノ其決議ハ、總社債權者ニ對シテ效力ヲ持ツノデアリマシテ、出席セザル社債權者ニ對シマシテモ、亦出席シテ反對ヲシタ社債權者ニ對シマシテモ、效力ヲ持タサナケレバナリマセヌ、此第三百二十七條ニ對應スル請求ノ規定ガ、第三百二十五條デアリマス、第三百二十六條ハ裁判所ガ是等ノ場合ニハ社債權者集會ノ決議ヲ認可シテハイケナイト云フ其事由ヲ、明ニ致シマシタモノデ、御讀ミニナリマスヤウナ理由ガアリマシタ場合ニ、此ノ決議ヲ認可スベカラザルコト、固ヨリ當然ノコトダト思フノデアリマス、併シ第二項ニ相當有力ナ規定ヲ設ケタノデアリマス、即チ第一號、第二號ノ場合、第一號ハ社債權者集會ノ手續ナリ決議ノ方法ナリガ、法令ニ反シ若クハ社債

募集ノ目論見書ノ記載ニ違反シタ場合デア
リマス、第二號ハ決議ガ不當ノ方法ニ依ッテ
成立スルニ至リマシタ時デアリマス、丁度
是等ノ理由ハ株主總會ニ於テ考ヘマス、ト、
株主總會ノ決議取消ノ事由ニ當ルヤウナ場
合デアリマス、左様ナ場合デモ裁判所ハ原
則トシテ、其認可ガ出來ナイト云フコトニ
シタノデアリマスガ、第二號ニ於テ決議ノ
内容ナリ其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ、成程
斯様ナ瑕疵ハアルケレドモ、決議ノ内容ハ
洵ニ結構デアルト云フコトヲ認メマスナラ
バ、其ノ決議ヲ認可シテモ妨ゲナイト云
フコトヲ、明ニ致シマシタ、此前ニ此案
ノ第七七條等ニ付テ申述ベマシタノト、
其趣旨ヲ同ジクスルモノデアリマシテ、此
規定亦運用ノ正シキニ依リマシテ、相當
立派ナ效果ヲ舉ゲルモノデハナイカト
存ジテ居ルノデアリマス、第三百二十七條
ハ先程申述ベマシタ效力發生ノ要件ニ付テ
ノ規定デアリマス、第三百二十八條ハ社債
權者集會ノ決議ニ對シマシテ、認可ナリ不
認可ノ決定ガアリマスカラバ、發行會社ハ
其旨ヲ公告シナケレバナナイト云フコト
ヲ明ニシタノデアリマス、第三百二十九條
ハ所謂代表者ノ規定デアリマスルガ、御承
知ノ擔保付社債信託法ニモ同趣旨ノ規定ガ

アリマシテ、相當效果ヲ舉ゲテ居ルノデア
リマス、御承知ノ通りニ社債權者集會ヲ一
催シテ、又一々ソレデ決議ヲシナケレバナ
ラナイト云フコトニナリマス、煩ニ堪ヘナ
イ場合ガ出テ來ルノデアリマス、デアリマ
スルカラ、ソレニ對スル便法ト致シマシテ、
社債權者集會ハ社債總額ノ五百分ノ一以上
ヲ有スル社債權者ノ中カラ、一人又ハ數人
ノ代表者ヲ選任シマシテ、其決議スベキ事
項ノ決定ヲ、之ニ委任スルコトガ出來ルト
云フ途ヲ拓イタノデアリマス、即チ社債權
者集會デ爲スベキコト、又社債權者集會ニ
於テ爲シ得ルコト、是等少數ノ者ニ委任シ
テ爲サシメルト云フ規定デアリマス、丁度
外ノ法規ニモアリマスルガ、大キナ總會ガ
アリマシテ、其外ニ總代ト云フヤウナモノ
ガアッテ、總代會ガ總會ノ委任ヲ受ケテ其
仕事ヲスルト云フヤウナ場合モ、認メラレ
テ居ルヤウデアリマスガ、丁度サウ云ツタ總
代會ニ似タヤウナモノデアリマス、第二項
ハ代表者數人アル場合ノ規定デアリマス、
第三百三十條ハ決議ノ執行者ニ付テノ規定
デアリマス、御承知ノ通りニ社債權者集會
ハ、決議機關デアリマシテ、此集會自身ガ別
ニ決議ノ執行ヲスルト云フコトハ、出來ナイ
譯デアリマス、デアリマスカラ、其決議ヲ誰

ガ執行スルノデアルカト云フコトノ規定ヲ、
必要トスル譯デアリマス、即チ本條ニ依リ
マシテ受託會社デアルトカ、或ハ若シ受託
會社ガナケレバ前條デ申シマシタ代表者、
是ガ執行ノ任ニ當ルト云フ原則ヲ掲ゲマシ
タ、併ナガラ社債權者集會ノ決議自身、別ニ
執行者ヲ定メテ居リマスナラバ、此決議ニ
依ル執行者ガ執行スルト云フコトハ、固ヨ
リ當然デアラウト存ジマス、是ガ第三百三
十條ノ規定スル所デアリマス、第三百三十
一條ハ代表者ナリ、執行者ガ數人アリマシ
タ場合、其執行ハ如何ニシテヤルカト云フ
コトニ付テノ規定デアリマシテ、第三百十條
ハ御承知ノ受託會社ガ二ツ以上アツタ場合
ニ、共同シテ其權限ヲ行使スルト云フ規定
デアリマシテ、ソレヲ茲ニ準用シテ參リマ
シタカラ、結局是亦共同行使ト云フコトニ
相成ルノデアリマス、第三百三十二條ハ社
債權者集會ノ決議執行ニ付キマシテ、第三
百九條等ノ條文ヲ準用シテ居ルノデアリマ
スルガ、是ハ其權限ナリ、償還額支拂ノ義
務ナリ、又其事項ニ付キマシテ、前ニ申シ
マシタ所ノ規定ヲ茲ニ持ッテ來テ居ルノデ
アリマス、第三百三十三條ハ社債權者集會
ハ何時デモ代表者又ハ執行者ヲ解任シタリ、
又其委託シタル事項ノ範圍ヲ擴張減少スル

コトガ出來ルト云フコトヲ、明ニシタノデ
アリマス、總テノ基本ハ社債權者集會ニア
リマスルカラ、隨テ此代表者ナリ、執行者
ナリ、社債權者集會ノ意思ノ範圍内ニ於テ、
活動シテ居ルノデアリマスルカラ、社債權
者集會ガ是等ノ者ヲ解任ヲシタリ、是等ノ
者ニ對スル委任事項ヲ變更シ得ルト云フコ
トハ、又是レ當然ノコトデアラウト思フノ
デアリマス、第三百三十四條ハ社債權者集
會ガ、實質的ニ活動ヲ致シマスル一ツノ重
要ナル場合デアリマス、會社ガ社債ノ支拂
ヲ怠リマシタ時、又定期ニ社債ノ一部ヲ償
還スベキ場合ニ、其償還ヲ怠リマシタ場合
ニハ、社債權者集會ガ決議ヲ致シマシテ、
其決議ニ依リマシテ、發行會社ニ對シテ一
定ノ期間内ニ辨濟ヲシロ、若シ其期間内ニ
辨濟ヲシナケレバ、社債總額ニ付テ期限ノ
利益ヲ失フデアラウ、斯ウ云フ通知ガ出來
ルト云フコトヲ規定シタノデアリマス、詰
リ社債權者集會ガ、總社債權者ノ利益ノ爲ニ、
活躍スル一ツノ重大ナル場合デアリマス、
尤モ此期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ナイト
云フコトニ致シマシタ、第一項ガ其關係ヲ
明ニシタノデアリマスルガ、第二項ハ通知
ノ方法デアリマシテ、其通知タルヤ、後日
ノ紛爭ヲ避ケルガ爲ニ、必ズ書面ニ依ラネ

バナラスト云フコトヲ明ニ致シマシタ、第三項ハ第二項ニ付テノ效果デアリマシテ、發行會社ガ定メラレタ期間内ニ辨濟ヲシナケレバ、社債總額ニ付テノ期限ノ利益ヲ失フト云フコトヲ、明ニ致シマシタ、第三百三十五條ガ之ニ關聯スル手續ノ規定デアリマシテ、右申上ゲマシタ關係カラ會社ガ期限ノ利益ヲ失ヒマシタナラバ、決議ノ執行者ハ遲滞ナク其旨ヲ報告シ、且ツ知レタル社債權者ニハ各別ニ通知ヲシナケレバナラナイト云フコトヲ明ニシマシタ、第三百三十六條ハ受託會社代表者、ソレカラ執行者ニ對シテ與フベキ報酬、又事務處理ニ必要ナル費用、是等ノ負擔ニ付テ誰ガソレヲ負擔スルカト云フコトノ規定デアリマス、第三百三十七條ハ社債權者集會ニ關スル費用ノ負擔者ノ問題デアリマシテ、是ハ發行會社ノ負擔ダト云フコトヲ第一項ニ明ニシマシタ、併シ少數社債權者ノ招集ニ依リマスル場合ニハ、株式會社デ申シマシタヤウニ、少數株主權ノ行使トシテ、株主總會ガ設ケラレタ場合ニ、其總會デ以テ費用ヲ招集者ニ負擔セシメ得ル場合ヲ豫想シテ規定致シマシタ、其規定ヲ茲ニ準用致シマシタカラ、其關係ニ於テハ、少數社債權者ハ、少數株主ト同様ニ相成ル譯デアリマス、ソレカラ第三項ハ

第三百二十五條ノ請求ト云フモノヲ規定シテ居リマスガ、是ハ先程申シマシタ裁判所ニ認可ヲ請求スル其請求デアリマス、其費用ハ會社ノ負擔トスル原則ヲ定メマシテ、尙ホ裁判所ガ別ニ負擔者ヲ定メテモ宜イト云フコトヲ明ニシマシタ、第三百三十八條ハ數種ノ社債ヲ發行シマシタ場合ニ、社債權者集會ハ、其數箇ノ各種類毎ニ招集シナケレバナラナイト云フコトヲ、明ニシタモノデアリマス、是亦蓋シ當然デハナイカト存ズルノデアリマス、第三百三十九條ノ第一項ニ、株主總會ニ關スル規定ヲ準用シテ居リマスルガ、是ハ招集手續ナリ、議決權ノ行使ナリ、又會議日ノ延期續行ナリ又議事録ノ作成等ニ付テノ規定デアリマス、第二項、第三項ハ御讀ミニナリマスル通りノコトデアリマシテ、別ニ御説明ヲ申上ゲル必要モナイカト存ズルノデアリマス、第三百四十條デアリマスルガ、申上ゲル迄モナシニ、社債權者ニ對スル辨濟ナリ、和解ナリ其他ノ行為ガ、平等デナケレバナラナイト云フコトハ、原則デアリマス、デアリマスルカラ或ハ特殊ノ社債權者ニ對シテ、極メテ不公正ノ割合デ以テ辨濟ヲ致シマスルナラバ、ソレハ其特殊ノ社債權者ニハ利益デアリマセウケレドモ、其以外ノ社債權者ニ對

シテハ不利益デアリマス、デアリマスルカラ斯様ナ不公正ナル辨濟等モ、之ヲ總社債權者ノ爲ニ取消スト云フ途ヲ開ク必要ガアルノデアリマス、其必要カラ致シマシテ第三百四十條ニ於キマシテ其第一項ニ斯様ナ辨濟法ガ著シク不公正デアリマスルナラバ、受託會社ガ其取消ノ訴ヲ提起スルコトガ出來ルト云フコトニ致シマシタ、第二項ハ其取消ノ訴ノ提起シ得ル期間ノ制限デアリマス、第三項ニ條文ガ引用ニナツテ居リマスルガ、第八十八條ハ裁判管轄ニ關スル規定デアリマシテ、本店所在地ノ地方裁判所ノ專屬管轄デアルト云フコトヲ明ニ致シタノデアリマス、民法ノ規定ハ御承知ノ通りニ詐害行為ニ關スル規定デアリマシテ、本條ハ恰モ詐害行為ニ類シマスル關係上、是等ノ規定ヲ準用致シタ次第デアリマス、第三百四十一條ハ前ノ取消ノ訴ニ付テノ規定デアリマシテ、社債權者集會ノ決議デアリマスルナラバ、代表者又ハ執行者モ前申シマシタ取消ノ訴ノ提起ガ出來ルト云フコトヲ明ニ致シマシタ、即チ右取消ノ訴ハ第三百四十條第一項ニ依リマシテ、受託會社ガ提起スルノガ原則デアリマスルケレドモ、社債權者集會ノ決議ガアリマスナラバ、第三百四十一條ニ依リマシテ、代表者モ執行者モ

提起スルコトガ出來ルト云フコトニ相成ルノデアリマス
○佐竹委員 大分詳シイ規定ガ出テ居リマシテ、此點ニ付テハ直接承ルコトハゴザイマセヌガ、唯一ツ關聯シテ御尋ヲ致シタイノハ、決議權ナキ株式ト云フモノヲ御認ニナル、其決議權ナキ株式ハ恰モ社債ト同様デゴザイマシテ、唯決議權ナキ株式デモ株式デゴザイマスノデ、其配當ハ勿論サウ致シマセウ、ガ併シ此決議權ナキ株主ノ間ニ於テハ、此社債權者集會ノヤウナ規定ハ少シモアリマセヌ、個々別々ニ權利ヲ行使スルノ外ハナイノデアリマス、斯ウ云フ場合ニ何カ此社債權者集會ト同様ナ規定ヲ設クル必要ハナカッタノデゴザイマセウカ
○大森政府委員 御尤ノ御質問ト存ズルノデアリマス、ソレハ議決權ナキ株主ニ對シマシテ、或ル不利益ノ及ビマスルヤウナ決議ガアリマスルナラバ、ソレハ議決權ナキ株主ダケノ決議ニ依リマシテ、ソレヲ認メナイ限りハ、其決議ハ有效ニナラナイト云フコトニ致シタノデアリマス、御承知ノ今日優先株ダケ認メラレテ居ルノデアリマスルガ、優先株主ニ不利益ヲ及ボシマスル定款ノ變更ハ、優先株主ダケノ決議ヲ必要トスルト云フコトニ相成ッテ居リマス、ソレヲ

擴張致シマシク同趣旨ノ規定ガ、第三百四十五條第二項ニ設ケラレテ居リマスノデ、仰セノ如キ御懸念ハ、無クナルコトト存ズルノデアリマス

○中野委員 三百二十九條ニ「一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ」トアリマスガ、一人又ハ數人ト云フ字ハナクテモ宜イヤウナ感じガ致シマスガ、殊更擧テ居ルノハ何カ意味ガゴザイマスノデスカ

○大森政府委員 御尤デアリマスルガ、此場合一人デ足リルカドウカト云フコトガ、屢問題ニナルノデアリマス、デアリマスルカラ或ハ丁寧ニ過ギルカモ知レマセスケレドモ、念ノ爲ニ其事ヲ明ニシテ次第デアリマス

○中野委員 三百三十四條ニ一定ノ期間ヲ定メテト云フコトニナツテ居リマスルガ、此一旦定メタ期間ハ更ニ延長スルコトガ出來ルヤニ思ヒマスルガサウデゴザイマセウカ、ソレト、延長ガ出來ルト云フコトニナリマスレバ、其延長ノ期間ヲ本ト致シマシテ、此三百三十六條ノ末項ノ適用ヲ受ケルト云フコトニナルノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 全ク御説ノ通りデアリマシテ、一旦定メマシタ期間デモ、社債權者集會ノ更ニ決議ガアリマスルナラバ、期間

ノ延長ガ出來ルト考ヘテ居リマス、サウシテ左様ナ場合ニ第三項ノ規定ノ適用ハ、延長セラレタル期間ヲ基準トシテ起ルモノデアルコトハ、全ク御意見ノ通りデアリマス

○中野委員 モウ一ツ最後ニ、三百三十六條以下ニ法人ノ事ガ規定シテアリマス、其中ニ裁判所ノ決定ト云フコトニ大體ノ趣旨ガナツテ居リマスルガ、裁判所ノ決定ニ對シマシテハ、株ガ多イトカ少イトカ、ソレカラ三百三十七條ノ「別ニ負擔者ヲ定ムルコトヲ得」ト云フ規定、ソレニ對シマシテ、其裁判所ノ決メタモノニ對シ、異議不服ノ途ハナイト云フ趣旨ニ考ヘテ宜シウゴザイマスカ

○大森政府委員 御指摘ノ場合ニ付キマシテハ、非訟事件手續法ニ之ニ對スル詳細ナ規定ヲ設クル筈デアリマシテ、今日私共ノ考ヘテ居リマスル所ニ依リマスレバ、勿論不服ノ途ヲ開ク積リデアリマス、將來ノ事デアリマスルカラ分リマセヌガ、此點ハ明ニ御約束シテ置イテ間違ヒナイコトト存ジマス

○野村委員長 ソレデハ第六節定款ノ變更

○大森政府委員 第六節定款ノ變更ニ付テ見上ゲテ見タイト存ズルノデアリマス、先ヅ第三百四十四條デアリマス、御承知ノ通

リ定款ノ變更ハ、特別決議デ致サナケレバナラナイノデアリマシテ、其特別決議ハ現行法ノ如ク定足數ヲ必要トスルノデアリマス、此決議ニ付キマシテハ、ヤハリ其決議ノ基本トナリマスル株主ノ數ナリ、又議決權ノ數ナリ、之ヲ基準ト致サナケレバナラナイノデアリマスガ、御承知ノ通り本案ニ於キマシテハ、議決權ナキ株式ト云フモノヲ認メマシタカラ、左様ナ株式ヲ有シマスル株主ハ、總株主ノ員數ニ算入シナイ、又其有スル株式ノ金額ハ、ヤハリ之ヲ資本額ニ算入シナイ、斯様ニ致サナケレバ決議ガ起ツテ來ナイト云フ弊害ヲ生ジマスルカラ、ソレヲ第一項デ明ニ致シマシタ、同様ノ關係カラ株券ヲ供託シナイガ爲ニ議決權ノ行使ガ出來ナイト云フモノニ付テモ、之ヲ總株主ノ員數ニ算入シナイト云フ必要ヲ生ジマス、是ガ第二項ノ規定デアリマス、第三項ハ既ニ申述べタ事デアリマシテ、特別利害關係ヲ有スルガ爲ニ議決權ノ行使ノ出來ナイ者ノ數ヲ、ヤハリ算入シナイト云フ規定デアリマスガ、

是亦特別決議ニ其通りニ致サナケレバナリマセヌカラ、ソレヲ規定致シマシタ、即チ本條ハソレ等ノ決議ノ標準ヲ定メマスルニ付テ算入セザルモノヲ、茲ニ規定シタ譯デアリマス、尙ホ此際ニ申述べテ置キタイノ

デアリマスルガ、此案デハ現行法ノ第二百十條ヲ削除致シマシタ、現行法ノ第二百十條ハ御承知ノ通りニ、株金全額拂込ノ後デナケレバ、増資ガ出來ナイト云フ規定デアツタノデアリマス、蓋シ其趣旨ハ、放漫ナル増資ヲ豫防スルニアツタノデアリマセウ、然ルニ此規定ガ大變實際ニ於テハ支障ヲ來ス基ニナツタノデアリマス、即チ極ク僅カナ部分ノ株式ニ付テ拂込ガ滞ツテ居ルト云フ場合、其僅カナ滞リノ爲メニ増資ヲシタクモ出來ナイト云フ支障ガアツタノデアリマス、例ヘバ或ル一人ノ株主ガ行方ガ分ラナイ、ダカラソレカラ株金ガ取レナイト云フ唯ソレダケノ爲ニ、増資ガ出來ナイト云フコトモアツタヤウデアリマス、斯様ニ邪魔ニナリマスルノミナラズ、此規定ガ一向ニ役ニ立タナクナツタノデアリマス、ト申シマスルノハ、

此規定ノ適用ヲ潛リマスルガ爲ニ、増資ノ形式ハ取ラナイデ、子會社ヲ新設致シマシテ、後ニ此會社ヲ吸收致シマス、サウ致シマスレバ増資ト同ジ結果ニ相成ルノデアリマス、要スルニ此二百十條ト云フモノハ、餘リ效力ノ無イ、而モ邪魔ニナル規定デアリマスカラ、寧ロ之ヲ除キマシテ、サウシテ放漫ナル増資ニ付テ危險ヲ防止スル他ノ規定ヲ以テ、之ニ代ヘタノデアリマス、ソ

デアリマスルガ、此案デハ現行法ノ第二百十條ヲ削除致シマシタ、現行法ノ第二百十條ハ御承知ノ通りニ、株金全額拂込ノ後デナケレバ、増資ガ出來ナイト云フ規定デアツタノデアリマス、蓋シ其趣旨ハ、放漫ナル増資ヲ豫防スルニアツタノデアリマセウ、然ルニ此規定ガ大變實際ニ於テハ支障ヲ來ス基ニナツタノデアリマス、即チ極ク僅カナ部分ノ株式ニ付テ拂込ガ滞ツテ居ルト云フ場合、其僅カナ滞リノ爲メニ増資ヲシタクモ出來ナイト云フ支障ガアツタノデアリマス、例ヘバ或ル一人ノ株主ガ行方ガ分ラナイ、ダカラソレカラ株金ガ取レナイト云フ唯ソレダケノ爲ニ、増資ガ出來ナイト云フコトモアツタヤウデアリマス、斯様ニ邪魔ニナリマスルノミナラズ、此規定ガ一向ニ役ニ立タナクナツタノデアリマス、ト申シマスルノハ、此規定ノ適用ヲ潛リマスルガ爲ニ、増資ノ形式ハ取ラナイデ、子會社ヲ新設致シマシテ、後ニ此會社ヲ吸收致シマス、サウ致シマスレバ増資ト同ジ結果ニ相成ルノデアリマス、要スルニ此二百十條ト云フモノハ、餘リ效力ノ無イ、而モ邪魔ニナル規定デアリマスカラ、寧ロ之ヲ除キマシテ、サウシテ放漫ナル増資ニ付テ危險ヲ防止スル他ノ規定ヲ以テ、之ニ代ヘタノデアリマス、ソ

レハ此案ノ第三百五十三條デアリマシテ、當該部分ニ付テ御説明ヲ申述べタイト存ズルノデアリマス、第三百四十五條ハ現行規定ニ於キマシテモ、定款ノ變更ガ優先株主ノ損害ニナルヤウナ場合ニハ、優先株主ダケノ總會ヲ必要トスルト云フ規定ガアリマシテ、是ハ現行規定ノ下ニ於テハ、不十分デアッタノデアリマス、ソレハ優先株主ガ普通株主ヨリモ少イト云フ勝手ナ前提ノ下ニ、出來タ規定デアリマシテ、普通株主ニ損害ヲ及ボスヤウナ定款ノ變更ニ付テ、普通株主ダケノ決議ヲ必要トスルト云フヤウナ規定ガ缺ケテ居ッタノデアリマス、而モ本案ニ於キマシテハ、屢、申述べマシタ通りニ、優先株、後配株、總テ二種類ノ株式ヲ廣ク認メタノデアリマスルカラ、之ニ付テノ規定ヲ廣ク改メル必要ガ出來テ參シタノデアリマス、デアリマスルカラ本條第一項ニ於キマシテ、會社ガ數種ノ株式ヲ發行シマシタ場合、定款ノ變更ガ或ル種類ノ株主ニ損害ヲ及ボスト云フ場合ニ於テハ、株主總會ノ外ニ、其當該種類ノ株主總會ノ決議ヲ必要トスルト云フコトヲ明ニ致シマシタ、第二項ハ其當該種類ノ株主總會ノ決議ニ付テハ、普通ノ場合ニ於ケル特別決議ヨリモ、更ニ其要件ヲ重クシタノデアリマス、即チ

普通ノ場合ノ特別決議ハ第三百四十三條ニアリマスル通りニ、資本ノ半額デ、サウシテ又株主ノ半數デアリマス、所ガ此場合ニ於キマシテハ、所謂特殊ノ種類ノ株主總會ニ於キマシテハ、其種類ノ株主ノ半數以上デアッテ、即チ頭數ノ半分ト云フコトハ同ジデアリマスルガ、株金總額ノ半額以上ニ當ル株主ガ出席シ、是亦同様デアリマスルケレドモ、其議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ決シナケレバナラナイト云フコトニ致シマシタ、即チ當該種類ノ株主ハ、被害者タルベキ株主デアリマス、言ヒ換ヘマズレバ今攻撃ヲ正ニ受ケテ居ル株主デアリマスルカラ、此決議ハ特ニ慎重デナケレバナラナイト云フ意味カラ致シマシテ、三分ノ二ノ多數ヲ要件ニ致シマシタノデアリマス、ソレカラ株主總會ニ付テノ規定ハ、此場合ニ全部準用サンルノデアリマスルガ、議決權ナキ種類ノ株主ニ關スルモノニ付テハ、株主總會ノ規定ノ準用ハナイノデアリマス、即チ第二項ノ適用ニ付テ考ヘテ見マスト、普通ノ場合ニ於テハ、議決權ナキ株主ハ、固ヨリ決議ニ參加ガ出來マセヌガ、併シ議決權ナキ株主ノ損害ニナリマサウナ定款ノ變更ナラバ、議決權ナキ株主ダケデ一ツノ總會ヲ開イテ、サウシテ決議ヲシナケレバ

ナラス、ソレハ即チ此第二項ト同ジコトニナルト云フコトガ明カニナル次第デアリマス、第三百四十六條ハ此條文ト同趣旨ノ規定ヲ、擴張的ニ規定シタノデアリマシテ、第二百二十二條第二項ノ決議ヲ爲シマス場合、是ハ即チ今申述べマシタ通りニ、各異ナレル種類ノ株式ヲ發行シマシタ場合ニ、新株ノ引受人ト云フヤウナ、財産の利益以外ノ利益ヲ或ル種類ノ株式ニ附セシメヨウト云フ決議ヲ爲ス場合デアリマス、又會社ノ合併ニ依リマシテ、或ル種類ノ株主ニ損害ヲ及ボスベキ場合、即チ株式併合ノ率ヲ異ニシヨウト云フヤウナ場合、ヤハリ定款ノ變更ニ依ッテ或ル種類ノ株式ニ、一般的ニ損害ヲ及ボス場合ト同様ニ、該種類ノ株主ノ特別ノ決議ヲ必要トスルト云フコトヲ明カニ致シマシタ、第三百四十七條ハ、御承知ノ通りニ會社ニハ拂込ヲ異ニスル株式ガアル譯デアリマス、例ヘバ現物出資ヲ致シマスナラバ、現物出資ニ付テハ全額ヲ與ヘマスケレドモ、他ノ出資ニ付キマシテハ、拂込デアリマスルカ、未ダ全額ニ及ンデ居ナイ場合ガアリ得ルコト勿論デアリマス、其他又増資ヲ致シマスナラバ、通例ノ場合ニ於テ、舊株ハ全額拂込デ、新株ハ未ダ一回ダケシカ拂込ンデ居ナイト云フ場合ガア

リ得ルノデアリマス、之ヲ要スルニ拂込額ヲ異ニスル株式ガアリ得ル譯デアリマス、ソレ等ニ付キマシテ、ヤハリ相互ニ利益、不利益ト云フ問題ガ起ルノデアリマスカラ、左様ナ拂込額ヲ異ニスル各種ノ各株式ニ付テ、ソレ等ニ對シテ特ニ損害ヲ與ヘ、不利益ニナルト云フヤウナ定款ノ變更ハ、當該株主全部ノ決議ヲ必要トスルト云フコトニ致シマシタ、是ガ第三百四十七條ノ規定デアリマス、次ニ第三百四十九條デアリマスガ、是ハ申ス迄モナク資本増加ノ場合ノ規定デアリマス、増資ノ場合ニ或ル者ニ新株ノ引受權ヲ與ヘヨウ、斯ウ云フ場合ニ、詰リ新株ノ引受ニ付キマシテハ、原則トシテ申込ガアレバ、ソレニ對スル割當ヲスル、其割當ハ全ク取締役ノ自由デアリマスガ、其自由ナル割當ノ原則ニ反シテ、或ル特定ノ者ニ新株引受權ヲ與ヘヨウト致シマスレバ、ソレハ特別決議ヲ必要トスルト云フコトヲ、明ニ致シタノデアリマス、次ニ第三百五十一條デアリマス、是ハ御承知ノ増資ノ場合ノ報告總會ニ付テノ規定デアリマシテ、現行規定ト同様デアリマス、ケレドモ後ニ申シマス通りニ、資本増加ハ此案ニ依リマシテハ、其旨ノ登記ニ依ッテ效力ヲ生ズルノデアリマシテ、丁度會社成立ノ要件ト

同ジクシタノデアリマス、隨テ報告ハ登記前ノ問題デアリマスカラ、資本増加成立前ノ問題デアリマス、デアリマスカラ此總會ニ參加致シマスル新株ノ引受人ハ、マダ株主ニハナッテ居ナイノデアリマス、蓋シマダ資本増加ガ成立ラシテ居ナイカラデアリマス、此點ハ現行法ト違フノデアリマスルガ、第二項デ特ニ念ノ爲ニ新株ノ引受人ハ、報告總會デハ株主ト同一ナ權利ヲ有スト云フコトヲ明ニ致シマシタ、新株引受人ハマダ株主デハナイケレドモ、此總會ニ出席シ、議決權ノ行使ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトヲ明ニ致シマシタ、第三百五十二條モ同様ノ關係カラ致シマシテ、必要ナル規定デアリマス、新株ノ引受人ハ株金ノ拂込ヲ致シマシタ期日カラ、利益又ハ利息ノ配當ニ付キ、株主ト同一權利ヲ有スルト云フ規定ヲ、必要トスルコトニナッタノデアリマス、即チ是等ノ者ガ拂込ヲ爲シマスル時ニハ、マダ株主デハナイノデアリマス、デアリマサルカラス様ナ規定ヲ以テ、其利益ヲ保護スル必要ヲ生ジタノデアリマス、第三百五十三條ハ放漫ナル増資ヲ抑制シマスル爲ニ、必要ナル規定デアリマシテ、會社ノ成立後二年内ニ増資ラスルト云フ場合、ソレカラ會社ノ成立後何年間ト云フ制限ハアリマセ

ヌケレドモ、資本ヲ倍額以上ニ増資シヨウト云フ場合、即チ百万圓ノ會社ガ二百万圓以上ノ資本ニナラウト云フ場合デアリマス、斯ル二ツノ場合ニ於キマシテ、第三百四十八條第二號ハ現物出資ニ付テデアリマス、又第三號ハ財産引受ニ付テデアリマス、此二ツノ事項ノ孰レカ若クハ二ツトモ之ヲ定メマシタ時ニハ、取締役ハ之ニ關スル調査ヲセシメル爲ニ、必ズ裁判所ニ検査役ノ選任ヲ請求シナケレバナラナイト云フコトヲ明ニ致シマシタ、詰リ放漫ナル、不必要ナル増資ガ行ハレ得ルト云フノハ、會社ガ成立シテ二年内ニ増資ラスルト云フヤウナ場合ガ多イデアリマセウ、又其成立後ノ期間如何ニ拘ラズ、資本ノ額ヲ倍以上ニシヨウト云フ場合モ、サウ云フコトガアリ得ルデアリマセウ、而シテ其際ニ最モ危險デアリマサルノハ、現物出資ト財産引受ニ付テ、不正ナル記載ラシ、又不當ナル定ヲスルコトデアリマス、デアリマサルカラス場合ニ對シテ、必然的ニ裁判所ニ検査役ノ選任ヲ請求シナケレバナラヌト云フコトニ致シタノデアリマス、第二項ハ裁判所デ検査役ヲ選任シマシタ場合ノ調査、竝ニ其ノ報告書等ニ付テノ規定デアリマシテ、是ハ創立總會ト同ジ規定ヲ、此處ニ持ッテ來タ次第デ

アリマス、次ニ第三百五十八條デアリマスルガ、是ハ先程モ申述べマシタ通りニ、資本増加ノ成立時期ヲ、法文デ明ニシタノデアリマシテ、其旨ノ登記ヲスルコトニ依ッテ、其效力ヲ生ズルト云フコトヲ明ニ致シマシタ、現行法ニハ此規定ガナイモノデアリマスルカラ、資本ノ増加ガ何時カラ本當ニ出來ルノデアルカト云フコトニ付テ、疑ヲ生ジテ居リマシタ、本案デハソレヲ明確ニシタ次第デアリマス、第三百五十九條以下ハ株式轉換ニ關スル規定デアリマス、御承知ノ通りニ、本案デハ廣ク異種類ノ株式ヲ認メタノデアリマス、偕デ此異種類ノ株式ノ中、ドノ種類ノ株式ガ最モ利益デアルカト云フコトハ、必シモ豫測ガ出來ナイノデアリマス、譬ヘテ申シマスルト、能クアリマスル例デ、普通株ニハ六分ノ配當ヲシテ、其殘リガアツタ場合ニ、後配株ニ配當ヲスルノデアルト云フ定ヲ致シマシタ場合ニ、七分ノ利益ガ配當出來ルト云フ場合ナラバ、普通株主ハ六分、後配株主ハ一分シカ貰ヘマセス、所ガ二割利益ノ配當ガ出來ルト云フコトニナリマスルナラバ、普通株主ガ六分、後配株主ガ一分四分デ、却テ非常ニ利益ヲ受ケルト云フコトニナルノデアリマス、其場合ニ株主ハドレガ利益デアラウ

カト云フコトニ迷フ譯デアリマス、之ニ迷ヒマスルナラバ、自然投資ニ躊躇ラスルト云フコトニ相成ル譯デアリマス、ソレデアリマスカラ、投資者ノ自由ヲ考ヘ、又投資ヲ受ケル方デモ便利デアリマスカラ、此相互ノ利益ヲ考ヘマスルナラバ、最初良イト思ッテ決メマシタ所ノ株式ヲ持ッテ居リマシテモ、後ニ異種類ノモノガ良クナリマスレバ、ソレニ乗移ルト云フ途ヲ拓クコトガ必要デアリマス、御承知ノ通りニ、外國ニ於キマシテハ、此株式轉換ノ途ヲ開イテ居リマスルガ爲メ、其實績ハ洵ニ宜シイヤウデアリマス、デアリマスルカラ、本案ニ於キマシテモ此株式轉換ノ途ヲ開イタノデアリマス、第三百五十九條ハソレヲ明ニシタモノデアリマシテ、増資ノ場合ニハ、定款デ株主ガ自分ノ引受ケタ新株ヲ、他ノ種類ノ株式ニ轉換スルコトヲ請求シ得ルト云フコトヲ定メテ宜シイ、尤モ此場合ニハ轉換請求ノ時期ヲ限定セネバナリマセヌ、又轉換ニ因ッテドノ株式ヲ貰フカト云フコトモ、決メナケレバナリマセヌ、ソレ等ノコトヲ茲ニ明ニ致シタノデアリマス、其次カラハ之ニ關スル手續デアリマスルガ、特ニ御注意ヲ願ヒタイノハ、第三百六十二條ノ規定デアリマス、轉換ハ其請求ヲ爲シタル時ノ屬

スル營業年度ノ終ニ於テ、其效力ヲ生ズルト云フコトニ致シマシタ、詰リ轉換ノ請求ハ一ツノ簡々ニアルノデアリマスルカラ、毎日生ジマセウ、甚シキニ至リマシテハ、毎日數十、數百生ズルカモ知レマセウ、左様ナ簡々ノ轉換ノアリマシタ場合ニ、簡々ニ其效力ガ生ズルト致シマスルナラバ、會社トシテハ煩ニ堪ヘナイノデアリマス、各種類ニ付テ考ヘマスルト、株式ノ數ガ刻々ニ變ッテ來ル譯デアリマス、デアリマスルカラ、ソレ等ノ效力ノ發生ヲ一括致シマシテ、每營業年度ノ終ニ效力ヲ生ズルト云フコトニ致シマシタ、是ガ第三百六十二條ノ規定デアリマス、第三百六十三條ハソレヲ受ケマシテ、每營業年度ノ終カラ一箇月内ニ、此轉換ニ因ッテ生ジマシタ各種類ノ株式ノ數ノ増減ヲ、登記シロト云フコトニ致シタノデアリマス、若シ第三百六十二條ノ規定ガナケレバ、此登記ハ其都度何時モヤラナケレバナライコトニナルデアリマセウ、ソレ等ノ點カラ考ヘマシテ、第三百六十二條、第三百六十三條ヲ設ケタ次第デアリマス、第三百六十四條ハ、株式ノ轉換ト云フ趣旨ハ、先ヅ同ジデアリマスケレドモ、更ニ一步ヲ超エ、社債ト株式トノ轉換デアリマシテ、社債ヲ株式ニ變ヘテ吳ト云フコト

ノ請求ヲ認メタ次第デアリマス、御承知ノ「コンパニティブル・ボンド」ト云フモノニ當ルノデアリマス、是ハ申上ゲル迄モナク、社債ハ償還額ガ決ッテ居ルノデアリマスルカラ、是ハ確實ナ點カラ申ノマスレバ一番安心デアリマス、所ガ株式ニナリマスルト、配當ガアルカナイカ、而モ其配當ノ額ガ高イカ低イカハ豫測ガ出來ナイノデアリマスカラ、不安ト言ヘバ不安、樂ミト言ヘバ樂ミデアリマス、ソコデ先ヅ確實ヲ求メル人ナラバ、確實ナル社債ヲ持チマス、而シテ斯クシテ集リマシタ社債ニ依リマシテ、會社ガ大イニ營業ノ成績ヲ擧ゲマシテ、利益配當ガ段々殖エテ來マスル場合、社債トシテ償還シテ貰フヨリモ、株主ニナッテ利益配當ヲ大イニ貰ヘバ、ソレニ越シタコトハナイノデアリマスカラ、左様ナ場合自分ノ拂込ミマシタ社債ガ、即チ株金トシテ拂込シタモノニナッテ、自分ガ社債權者ノ地位カラ脱退シテ、株主ノ地位ヲ取得シマスルナラバ、大變ナ利益デアリマス、好都合デアリマス、斯様ナ途ヲ拓イテ置キマスレバ、社債ヲ持タウカ株式ヲ持タウカト云フ迷ヒナシニ、先以テ社債ニ飛込シデ置イテ、サウシテ利益ガアレバ株式ニ乗換ヘルト云フコトニナルノデアリマスカラ、是亦投資ノ自由

ガ非常ニ擴大サレル譯デアリマス、ヤハリ外國ニ於テモ其實績ガ甚ダ擧ッテ居ルヤウデアリマスカラ、本案ニ於テモ之ヲ認メタノデアリマス、ソレガ三百六十四條以下デアリマシテ、同條ニ於キマシテハ此社債ヲ株式ニ轉換シ得ルコトヲ認メタ次第デアリマス、併シ是ニハ轉換ノ條件ナリ、轉換ニ依ッテ發行スベキ株式ハドウ云フモノデアルカ、又轉換ヲ請求スルコトヲ得ベキ期間ヲ決メテ置カナケレバナライノデアリマシテ、ソレ等ノコトヲ本條ニ決メテ置イタノデアリマス、第三百六十五條ハ轉換ニ因リマシテ發行スベキ株式ハ、全額拂込ノモノデナケレバイケナイト云フコトニ致シマシタ、丁度其關係ハ社債デ拂込シタ金ヲ株式デ拂込シタコトニスルノデアリマシテ、全額拂込済ノ株式ト云フコトニ相成ラナケレバ、弊害ヲ生ズル譯デアリマス、第二項ハ轉換ニ因ッテ發行スベキ株式金額ガ、轉換スベキ發行價格ヲ超エテハイケナイト云フコトニ致シマシテ、是亦確實ヲ期スル爲ノ規定デアリマス、第三項ニ第二百八十八條ノ第二項ヲ引用シテ居リマスガ、是ハ先程申シマシタ準備金繰入ニ關スル規定デアリマス、次ニ第三百六十八條デアリマスガ、是ニハ二ツノ規定ヲ準用シテ居リマス、第二百八

條第一項ハ御承知ノ通り質權ガソレニ伴ッテ附イテ行クト云フ規定デアリマシテ、最初社債ヲ持ッテ居リマシタ其社債ニ質權ガ付イテ居リマスルナラバ、其社債ニ代ッテ貰ッテ所ノ株式ニ質權ガ及ブト云フ結果ヲ、茲ニ明ニシタノデアリマス、尙ホ第三百六十二條ハ營業年度ノ終リデ效力ヲ生ズルト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、是ハ株式ノ所ニ於テモ申述べマシタガ、簡々ノ際ニハ尙更必要デアリマス、詰リ社債ノ轉換ハ轉換請求ノ認メラレタ其都度生ズルノデアリマスルガ、社債ノ轉換ニ因ッテ社債ガナクナリマスルガ、資本ガ殖エマス、株式ガ殖エマスル結果、當然左様ニ相成リマス、隨テ其都度毎ニ資本増加ニナルト云フコトニナリマス、登記手續等ガ非常ニ煩瑣ニナリマス、デアリマスルカラ營業年度一ツデ纏メマシテ、一括シテ營業年度ノ終リニ其效力ガ生ズルト云フコトニ致シマシタ、第三百六十九條ハ、ヤハリソレヲ受ケタ規定デアリマシテ、轉換ニ因リマスレバ資本ハ増加ヲ致シマス、又同時ニソレダケ社債ガ減少致シマス、ソレ等ノ登記ハ營業年度ノ終リカラ一箇月内ニスベキモノデアルト云フコトヲ、明ニ致シマシタ、第三百七十一條以下ハ資本増加ノ無効ニ付テノ訴ニ關

スル規定デアリマス、御承知ノ通りニ現行法ニ於キマシテハ、増資ノ無効ノ訴ト云フ規定ガナイノデアリマス、デアリマスルカラ、解釋上ニ於キマシテハ、誰デモ、何時デモ、如何ナル方法デモ、増資ノ無効ノ主張ガ出來ルト云フコトニ相成ルノデアリマシテ、増資ノヤウナ大キナ法律上ノ事實ガ、斯様ナ不安ニ曝サレテ居ッタノデアリマス、其關係ガ丁度合併無効ニ付テ申述べタ所ト、同様ニナルノデアリマシテ、合併無効ニ付テ之ニ關スル訴ノ規定ヲ新設致シマシタト同様ノ意味ヲ以チマシテ、増資無効ニ付テノ訴ニ關スル規定ヲ、此處ニ置キマシタ、ソレガ、三百七十一條デアリマス、第三百七十三條ハ資本ノ増加ヲ無効トスル判決ガ、確定シマシタ場合ニ、新株ハドウナルカト云フコトニ付テ、規定ヲ必要ト致シマスルカラ、之ヲ明ニシタノデアリマス、即チ新株ハ將來ニ向ッテ其效力ヲ失フト云フコトヲ、第一項デ明ニ致シマシタ、サウナリマスルト會社ハ其新株ニ對スル株券ヲ會社ニ回收シナケレバナリマセスカラ、之ニ關スル手續ヲ規定ヲ、第二項ニ置イタ次第デアリマス、第三百七十四條モ資本増加ガ無効トナリマシタ場合ノ後始末ニ付テノ規定デアリマシテ、左様ナ場合ニハ會社ハ

新株ノ株主ニ對シテ、其拂込シダ株金ニ相當スル金額ヲ支拂フ、即チ拂戻ヲスル必要ノアルコトヲ明ニ致シマシタ、所ガ丁度ソレダケノ財産ガアレバ宜イノデアリマスルケレドモ、判決確定ノ時ノ會社ノ財産ノ狀況ヲ見マスルト、資本増加ヲシタ當時ノ狀態カラ見ルト、甚シク變ッテ居リマシテ、今其金額ヲ返サシムルト云フコトハ、甚ダ會社ノ現狀ニ照シテ不都合デアアル、不相當デアアル、斯ウ云フヤウナ場合ニハ裁判所ハ會社ノ請求ナリ、又新株主ノ請求カラ見マシテ、此金額ヲ減ジタリ、増シタリ、又ハソレニ必要ナル未拂込ノ株金額ノ拂込ヲ命ズルコトガ出來ル、斯ウ云フ規定ヲ置イタノデアリマス、是亦此後始末トシテ、當然必要ナルモノデハナイカト存ズルノデアリマス、第三百七十五條ハ特別決議ヲ必要トスル場合ヲ一ツ茲ニ更ニ明ニシタノデアリマス、是ハ御承知ノ所謂事後設立ニ當ル一ツノ場合デアリマシテ、會社ガ資本増加ノ後二年内ニ、其増加ノ前ヨリ存在スル財産デアリマシテ、營業ノ爲ニ繼續シテ使用スベキモノヲ、一定價格以上ノ値段ヲ以テ買取リマスル約束ヲシマスルニハ、特別決議ヲ必要トスルト云フコトニ致シマシタ、會社設立ノ場合ニ付テ本案ノ第二百四十六條

ニ、ヤハリ是ト同趣旨ノ規定ヲ設ケタノデアリマス、増資ノ場合ニ付キマシテ此規定ヲ置クノハ、是トノ均衡上當然デアラウト思フノデアリマス、是ハ屢、申述べマシタ通り現物出資、財産引受、是等ノ規定ヲ潛ル爲ニ行ハレル、ソレヲ豫防シタモノデアリマス、次ニ第三百七十六條ハ資本減少ノ場合デアリマスルガ、其第三項ノ規定デアリマス、御承知ノ通りニ資本減少ノ場合ニハ、債權者ニ異議ヲ述ブル機會ヲ與ヘナケレバナリマセス、又異議ヲ述ベマスレバ、是等ニ對シテ辨濟其他ノ手續ヲ經ナケレバナリマセスガ、社債權者ガ個々ニ此異議ヲ述ベルト云フコトニナリマスルト、會社ニ取ッテハ其煩ニ堪ヘナイノデアリマス、又タツタ一人ノ社債權者ガ異議ヲ述ベルト云フコトハ、他ノ多クノ社債權者ノ利益ニナルカドウデアアルカ、是亦大イニ考慮ヲ要スルノデアリマス、折角此案ニ於キマシテ社債權者集會ト云フモノヲ認メタノデアリマスルカラ、斯ル異議ヲ述ベルノニハ、社債權者ノ集會ノ決議ニ依ルコトヲ必要トスル、詰リ社債權者集會ノ決議ニ依ラザル個々ノ社債權者ノ異議ハ、之ヲ認メナイト云フコトヲ明ニ致シタノデアリマス、而シテ此異議ニハ、ソレヲ述ベル一定ノ期間ガ

アリマスルカラ、社債權者集會ヲ開イテ居ルト、其期間ヲ徒過スルト云フ虞モ生ジマス、其爲ニ第三項ノ後段ニ、斯ウ云フヤウナ場合ニ異議ノ期間ヲ伸長ガ出來ルト云フ規定ヲ、置イタノデアリマス、次ニ第三百七十七條デアリマス、資本減少ノ場合ニ於ケル株式併合ニ付テノ規定デアリマスルガ、其第二項ニ併合ノ成立時期ヲ明ニシマシタ、次ニ第三百七十八條デアリマスルガ、株式ノ併合ガアリマシタ場合ニ舊株券ヲ會社ニ回收シナケレバナリマセス、之ニ付テノ規定ガ缺ケテ居リマシタカラ、ソレヲ補ッタノガ即チ此條項デアリマス、次ニ第三百八十條デアリマスルガ、先程資本増加ノ無効ノ主張ニ付テ、本案デハ規定ヲ新設シテ、ソレハ訴ニ依ラナケレバナラヌト云フトヲ明ニ致シマシタ、ソレト全ク同趣旨ノ下ニ資本減少ノ無効ノ訴ニ付テ、規定ヲシタノデアリマシテ、第三百八十條第一項ニソレヲ掲ゲ、第二項ニ其請求ヲ爲シ得ル者、即チ原告ノ資格ヲ書キマシタ、第三項ニ是マデ現レテ來マシタ同種ノ訴ニ付テノ規定ヲ、茲ニ準用致シタ次第デアリマス

○中野委員 第三百四十八條第二號ニアリマス現物出資ノコトニ付テ、御同致シマス、是ハ第百十一條デ御聽シタカッタノデ

アリマスガ、丁度他ノ委員會ニ出テ居ッテ缺
席ヲ致シマシタ爲ニ、御伺出來マセスデシタ
ガ、現行商法第二百二十二條第一項第二號ニ
「金錢以外ノ財産」トアルノデアリマスガ、此
改正商法ノ第六十八條第一項第五號ニ
モ、現物出資トアリマス、第二項ニモ同様
ニナッテ居リマス、現行商法ノ金錢以外ノ
財産ト云フ意味ニハ、ドウ云フモノガ入ル
カト云フコトニ付テハ學說等モアリマス
ガ、法文トシマシテハ學說ヲ藉ラナイデ、
疑ノ生ジナイヤウニシナケレバナラス、此
改正商法ニ現物トアルノハ、疑ヲ生ズル餘
地ナキヤウニ、民法ニ謂フ所ノ物ト云フコ
トニ限ラレタモノデアル、斯様ニ心得テ宜
シイノデアアルカ、ソレトモ茲ニ謂フ現物出
資ト云フノハ、通俗的ニ金錢以外ノ財産、
之ヲ客觀的ニ言フ所謂其代名詞デアリマス
カ、其邊ガ一寸分ラヌノデアリマス、只今
ノ第三百四十八條ニモ現物ト云フコトガゴ
ザイマスシ、第六十八條ノ所デ御聽キスル
ノガ適當デアッタト心得マスガ、其點前ニ
ドナタカ御尋ニナッテ居リマスレバ、同ジ
コトヲ繰返シテ御尋ラシテ、御答辯ヲ速記
録ニ載セルノモ甚ダ體裁ノ好イコトデモア
リマセスカラ、撤回シテ別ノ席デ御聽キ致
シマスガ、今マデナカッタラ御教示ヲ仰ギ

タイト思ヒマス

○大森政府委員 御尤ノ御尋デアリマス、
本案デハ現物出資ト云フ文字ヲ用ヒマシタ
ケレドモ、其實質ハ毫モ現行法ヲ變更シタ
積リハナイノデアリマス、デアリマスカラ
現物ト云フ其物ト云フ文字ニ重キヲ置キマ
スレバ、債權出資ノ如キハ出來ナイカノ如
キ感ガアリマスルケレドモ、左様ナ積リハ
全クナイノデアリマス、只今御示ニナリマ
シタ通りニ現物出資ト云フ言葉ハ、今日廣
ク行ハレテ居リマシテ、金錢以外ノ財産ヲ
以テ出資ノ目的ト爲ス場合ニ、丁度ビッ
リト該當シテ居リマスルカラ、其文字ヲ法
文化致シマシテモ一向差支ナイモノト思ヒ
マシテ、茲ニ使ヒマシタ次第デアリマス、
隨テ物ニ限ラズ、債權ノ出資モ、ヤハリ本
案ノ下ニ於テモ出來ルモノト御承知ヲ願ヒ
タイノデアリマス

○中野委員 モウ一ツ伺ハサセテ戴キマス
ガ、一層私が疑フ深ク致シマシタノハ、第
百六十八條第一項第五號、ソレカラ第二項ニ
現物出資ト云フ今マデ使ッテナイ文字ガア
リマスガ、第六十八條ノ第一項第六號ニ
ハ單ニ財産トアリマスカラ、ソコデ疑フ一
層深クシタノデアリマスガ、只今ノ御説明
ニ依リマシテ、現行法ノ趣旨ト違ハナイト
心得テ宜シイデアリマセウカ、尙ホ是ハ御
笑ヒノ種ニナルカモ知レマセスガ、電氣ハ
刑法其他單行法ニ依リマシテ、物ト同ジ取
扱ヲシテ居リマスガ、商法ノ上デハ電氣ニ
關スル御考ハ、ドウ云フ風デゴザイマス
○大森政府委員 電氣ニ付テデアリマス
ガ、電氣其モノヲ出資スルト云フノハ、如
何ナル關係ニ立チマスカ、私其方面ニ全ク
暗イ者デアリマスカラ承知致シマセスガ、
電氣其モノダケヲ出資スルト云フヨリ
モ、或ハ設備トカ、其設備ニ附イテ居リマ
スル一切ノ施設ト云フヤウナモノノ、出資ニ
ナリハシナイカト存ズルノデアリマス

○佐竹委員 其點ニ關聯致シマシテ——設
立ノ場合モサウデアリマスガ、定款變更ノ
規定中ニ於キマスル第三百五十一條ニ於キ
マシテモ「現場出資ノ給付アリタル時」トア
リマス、往々ニシテ約手ヲ振出シマシテ其
儘交付致シマス、此コトガ設立ノ場合或ハ
資本増加ノ場合等ニ往々行ハレテ居ルノデ
アリマスガ、是ハ有效デアリマセウカ
○大森政府委員 株金ノ拂込デアリマスル
ナラバ、約手ノ振出デハ拂込ニナラナイノデ
アリマシテ、現金ノ交付ノアッタ場合ニ拂込
ニナルモノト存ズルノデアリマス、併ナガ
ラ現物出資トシテ債權ヲ出資致シマスルナ
ラバ、是ハ別個ノ問題ヲ生ジョウト思ヒマ
ス、ケレドモ約手ノ振出ト云フ一ツノ債權
上ノ問題ヲ以テ現物出資ニスルト云フコト
ハ、恐ラク多クノ場合ニ於テ株金ノ拂込ヲ
免カレル脱法的手段デハナイカト思ハレル
ノデアリマス、ソレデアリマスカラ現物出
資トシテ歡迎スベキモノナリヤ否ヤ、具體
的ノ場合ニ付テ考ヘナケレバナリマセス
ケレドモ、左様ノ脱法的ノ意味ニ使ハレル
コトガ多イダウト思ハレマス

○佐竹委員 例ヘバ殆ド現金トシテ扱ハ
レテ居リマス銀行ノ振出ニ掛リマス小切手ヲ
給付致シマス場合ニ、是亦現物出資ト云ッテ
差支ナイデゴザイマセウカ、或ハサウ云フ
場合ニハ現金支拂ト見テ差支ナイノデアリ
マセウカ

○大森政府委員 正確ニ申シマスレバ、小
切手デモ落チタ時ニ現金ノ拂込ニナルノデ
アリマス、小切手ノ交付ダケデハ株金拂込
ガ完了シタトハ言ヘナイト存ズルノデアリ
マス、尙ホ小切手ヲ現物出資トシテ提出ス
ルト云フコトハ、實際ニ於テハ恐ラクハナ
カラウト存ジテ居リマス

○佐竹委員 モウ一ツ、他ニ御質問ガアル
ヤウデアリマスレバ、一切省略シヨウト思ッ
テ居リマシタガ、他ニナイヤウデゴザイマ

スカラ、一ツ御伺致シタイト思ヒマス、第三百五十二條ノ「株主ト同一ノ權利ヲ有ス」デアリマスガ、此「株主ト同一ノ權利」ト云フコトハ、此時ニハ株主トシテ總會ニ出席スルトカ、或ハ決議ニ加ハルト云ツタヤウナ權利マデモ有スルト云フ意味デゴザイマセウカ

○大森政府委員 報告總會ニ出マシテ、株主ト同一ノ權限ヲ行使スル、所謂議決權ヲ行使スルト云フコトハ、第三百五十一條ノ第二項ニ明ニナッデ居リマスルカラ、御指摘ノ第三百五十二條ノ方ハ、全ク財産的ノ權利ニ付テノ規定デアリマス

○山本委員 直接此法律ニ關スル部分デアリマセスガ、今度ノ改正商法ヲ見ルト、検査役ノ選任申請ノ機會ガ大變多イノデアリマスガ、從來私共ノ取扱ツタ例カラ見ルト、裁判所ニ検査役ノ選任ノ申請ヲシ、而シテ其選任ガ出來テ、其選任セラレタ検査役ガ調査ヲシテ報告書ヲ出サレテ、其報告書ガ出デカラ報告書ニ基ク色々ノ裁判上ノコトモ決定ガ行ハレルノデアリマスガ、ソレ等ノコトガ非常ニ日數ヲ要シテ居ルノデアリマス、検査役ノ選任申請ヲシテカラ其結果ヲ得ル迄ニ、相當長イ期間ヲ要スルノデアリマス、今度ノ改正商法デハ、急速ニ其目的

ヲ達シナケレバナラヌヤウナ規定ガ、大分ソチコチニ散見セラレルノデアリマスガ、是等ノ検査役ノ選任ニ對スル規定ト申シマスカ、ソレ等ニ付テ特別ニ相當ナ期間ヲ定メルトカ、或ハ緊急ヲ要スルモノニハ、特別ノ期間ヲ定メルトカ云フヤウナコトデ、時機ヲ失シナイヤウナ、商取引ノ安全ヲ保障出來ルヤウナ改正ナリ、或ハサウ云フ規定ヲ置ク御趣旨デアリマセウカ、其内容ヲ御伺シタイト思ヒマス

○大森政府委員 御注意洵ニ感謝ヲ致ス次第デアリマス、御趣旨ノ通りニ非訟事件手續法ノ制定ニ當リマシテ、其點ヲ十分ニ考慮シタイト存ジテ居リマス、尙ホ只今御指摘ノ點ハ、期間ノ問題ダケデアリマシタガ、今日此會社法上ノ検査役ノ検査ガ、果シテ實質上ニ十分デアルカ否ヤト云フコトニ付テモ、私共甚ダ遺憾ニ存ジテ居ルノデアリマス、此度ノ法案ニ於キマシテハ、検査ニ極メテ重キヲ置イテ居リマルカラ、實質上立派ナ検査ノ出來マスルヤウニ、専ラ努力ヲ致シタイト存ジテ居リマス、左様御諒承ヲ願ヒタイトデアリマス

○山本委員 モウ一點伺ヒマス、第三百七十四條ノ規定デアリマスガ、之ニ依ッテ裁判所ガ會社又ハ無効ニナツタ、株式ヲ引受ケタ株主ノ請求ニ依ッテ拂戻スベキ金額ニ對シテ増減ガ出來ルト云フコトニナツテ居リマスガ、此場合ニ於ケル裁判所ノ取扱ハ、會社ガ請求スル場合ハ恐ラク想像スルニ、増ス場合デナクシテ減ズル場合デアラウト思ッテ居リマスガ、是ハ觀念的ニハ増ス場合モアリ得ルデハゴザイマセウガ、實際問題トシテハ先ヅ減ズル場合ガ多イ、サウ云フ場合ニ、會社ノ申立ガアツタ場合ニ、株主ノ方デ其會社ノ申込ナリ、請求ナリガ事實ニ即セザル事情ガアルトカ、或ハ不當デアルトカ、或ハ會社ニハ斯ウ云フ處分財産ガアツテ、裁判所ノ承知スベカラザルヤウナ事情ガ伏在スルトカ、所謂無効株ヲ引受ケテ損害ヲ被ル立場ニ居ル株主カラ、裁判所ニ對シテ異議ト言ヒマスカ、不服ト言ヒマスカ、或ハ釋明ト言ヒマスカ、サウ云フ「チヤンス」ヲ與ヘルヤウナ規定ガナイヤウデアリマスガ、是等ハ如何ナル取扱ニ依ッテ、裁判所ガ決定ヲサレルノデアリマセウカ

○大森政府委員 御指摘ノ場合、又非訟事件手續法ニ詳細ナル規定ヲ以テ、ソレニ當ル積リデアリマシテ、ソレ等利害關係人ノ意見ヲ徵スルコトハ勿論、裁判所ガ職權的ニ立チマシテ、精細ナル事實ノ調査ヲシタ上デ、是等ノ判定ヲ下スト云フコトニ致シタイト存ジテ居リマス

○山本委員 モウ一點御伺致シマス、此三百七十三條、三百七十四條ノ無効ノ判決ガ確定シタ場合ニ付テ申上ゲテ置キマスガ、例ヘバ裁判所ガ或ル株主ノ請求ニ依ッテ裁判ノ結果、其資本増加ガ無効デアツタト云フ理由ガアツテ無効ノ判決ヲ下シタ、所ガ大多數ノ株主カラ言フト、資本増加ノ無効ノ原因ガアツタケレドモ、併シ會社ノ將來竝ニ其會社ノ性質上カラ、自分等ハ無効ニシナイデ、此會社ノ株主ニナツテ居タイト云フヤウナコトガ、實際問題トシテアリ得ルト思フノデアリマスガ、サウ云フ場合ニ於テ、前ノ方ノドノ規定デシタカ、合資會社デシタカ、合名會社デシタカ、殘ッテ居ル者ダケデ云々ト云フ規定ガゴザイマスガ、是ハ説明セスデモ分ルト思ヒマスガ、サウ云フヤウニ其會社ノ株主タルコトヲ希望スル株主ガ、例ヘバ百万圓増資シタ場合ニ、三十萬圓アルトカ、五十萬圓アルトカ、七十萬圓アルトカ云フヤウナ場合ニ、何カ其希望スル株主ヲ、救済スル規定ガゴザイマセウカ

○大森政府委員 只今御示ノ場合、即チ合名會社ニ付キマシテハ、或ル社員ガ退社ニナルケレドモ、他ノ社員ダケデ會社ヲ繼續

シテ行クト云フ場合ニハ、第三百三十九條ノ
コトデアラウト存ズルノデアリマス、併シ

ハ是デ散會スルコトニ致シマス、明日ハ午
前十時ヨリ始メマス

此第三百三十九條ハ此處ヘ準用致シマセヌデ

午後三時十分散會

シタケレドモ、御承知ノ百七條、即チ無効

ノ原因ガアリマシテモ、其原因ガ今デハ補

充サレテ居ル、或ハ又會社ノ現在ノ狀態

其他一切ノ事情ヲ斟酌致シマシテ、他ノ株

主ノ爲、又一般第三者ノ爲、又況ヤ會社ノ

爲ニ、之ヲ無効ニシナイ方ガ宜イト裁判所

ガ認メマスルナラバ、其無効請求ヲ棄却シ

テ宜シイト云フ第百七條ガ、此場合ニモ準

用サレテ居ルノデアリマス、即チ第三百三

十二條ノ準用ノ中ニ第百條ガ參ッテ居リマ

ス、ソレデアリマスカラ、其規定ノ適正ナ

ル運用ニ依リマシテ、御示シノヤウナ場合

ハ十分ニ解決ガ出來ルノデハナイカト存ジ

テ居ル次第デアリマス

○野村委員長 定款ニ付テハ、他ニ御質疑

ハナイヤウニ思ヒマス、次ノ第七節會社ノ

整理ニ付キマシテ、御質疑ヲ願ヒタイト思

ヒマスガ、併ナガラモウ十二時ヲ過ギテ居

リマスカラ、是デ休憩致シマシテ、午後ハ

二時半カラ開クコトニ致シマス

午後零時二十二分休憩

午後三時七分開議

○野村委員長 是カラ開會致シマス、本日

昭和十三年三月十五日印刷

昭和十三年三月十六日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局